

特20

613

島根
鳥取
名士
列傳

上編

故福澤先生著修身要領

深田豐市編纂

博進館發行

島根名士列傳編纂ノ趣旨

本書編纂ノ目的タルヤ元來社交上ノ機關トシテ庶幾ハ亦信用タラシメントス
ルニアリ惟フニ社會ハ如何ナル場合ニ於テモ人物ニ支配セラレ人物ニ嚮導セ
ラレ人物ニ教訓セラレベキ宿命ヲ有スルモノナリ此宿命ノ完全ニ行ハル、場
合ハ社會ハ健全ニ進歩シ完全ニ行ハレザル場合ハ即チ社會ノ病症ヲ醸生ス凡
ソ人類ノ歴史アリテ以來此大理ハ終古依然タリ余儕茲ニ感ズル所アリ故ニ先
ッ吾山陰道ニ於ケル島根鳥取兩縣下知名縉紳ノ傳記ヲ蒐集網羅シ記事冗長ヲ
避ケ該博ヲ主トシ其性行ハ之ヲ直筆シ事實ヲ枉ゲズ又敢テ毀譽褒貶スル事ナ
シ只其德行ノ超群藝能ノ殊長等ハ之ヲ錄叙シテ遺憾ナカラシメ以テ討究諮詢
求益ノ一助トシ或ハ内外博通ノ士因テ以テ互ニ相識ルノ媒助タラシメ併セテ
後進發奮ノ龜鑑ニ供セントス

明治三十有六年四月

編者識

寫眞ノ入手次第編制脱稿セルヲ以テ順次不同ナリ希クハ恕セヨ
一本編ニハ卷首ニ各名士ノ肖像掲載スル事トシ眞寫未送納ノ分ハ再度請求セ
シモ本編完結迄ニ送附セラレズ故ニ傳記ハ掲載スルモ肖像ヲ欠グモノアリ
一本編ハ前記ノ件々又ビ傳記編纂肖像印刷等主ニ出版刊行ヲ急ギ爲メニ不完
ナリ後日再版ノ際充分ニ補訂ヲ加ヘ完備センメ諸彦ニ遺憾ナカラシメント
ス讀者幸ニ之ヲ諒セヨ

編 者 手 記

陳言

一本編ノ題字序文ハ千家東京府知事及ビ島根鳥取兩縣知事ノ三氏其他各位ニ囑托シ各之レガ承諾ヲ得シモ折節第五回内國勸業博覽會ノ大坂ニ開カル、アリテ是レニ臨會セラル、アリ或ハ公私多端ナリシ爲メ殊ニ又本編ノ發行ヲ急ギシ事故共ニ出版ノ間ニ合ハサリシハ遺憾ノ至リナリ由テ是レハ悉ク後編ニ廻ハシ本編ニハ唯竹谷俊一氏ノ寄稿セラレシ故福澤先生著修身要領ヲ劈頭ニ掲ル事トセリ

一本編ハ明治三十五年八月初メテ筆ヲ起シ漸ク今月今日ヲ以テ出版スルニ至レリ蓋シ材料蒐集寫眞取寄ニ非常ノ困難ヲ感ゼシニ由ルナリ

一掲載ノ順序ハ以呂波ニアラズ又特ニ著者ノ注意ニ基ケルニモアラズ只材料

修身要領

凡ソ日本國ニ生々スル臣民ハ男女老少ヲ問ハズ萬世一系ノ帝室ヲ奉戴シテ其恩德ヲ仰カザルモノアル可ラズ此一事ハ滿天下何人モ疑ヲ容レサル所ナリ而シテ今日ノ男女ガ今日ノ社會ニ處スル道ヲ如何ス可キヤト云フニ古來道德ノ教一ニシテ足ラズト雖モ德教ハ人文ノ進歩ト共ニ變化スルノ約束ニシテ日新文明ノ社會ニハ自ラ其社會ニ適スルノ教ナキヲ得ス即チ修身處世ノ法ヲ新ニスルノ必要アル所以ナリ

第一條 人ハ人タルノ品位ヲ進メ智德ヲ研キマス、其光輝ヲ發揚スルヲ以テ本分ト爲サザル可ラズ吾黨ノ男女獨立自尊ノ主義ヲ以テ修身處世ノ要領ト爲シ服膺シテ人タル本分ヲ全ウス可キモノナリ

第二條 心身ノ獨立ヲ全クシ自ラ其身ヲ尊重シテ人タルノ品位ヲ辱メサルモ
ノ之ヲ獨立自尊ノ人ト云フ

第三條 自ラ勞シテ自ラ食フハ人世獨立ノ本源ナリ獨立自尊ノ人ハ自勞自活
ノ人タラサル可ラス

第四條 身體ヲ大切ニシ健康ヲ保ツハ人間生々ノ道ニ缺ク可ラサルノ要務ナ
リ常ニ心身ヲ快活ニシテ苟メニモ健康ヲ害スルノ不養生ヲ戒ム可シ

第五條 天壽ヲ全クスルハ人ノ本分ヲ盡スモノナリ原因事情ノ如何ヲ問ハス
自カラ生命ヲ害スルハ獨立自尊ノ旨ニ反スル背理卑怯ノ行爲ニシテ最モ賤
ム可キ所ナリ

第六條 敢爲活潑堅忍不屈ノ精神ヲ以テスルニ非サレバ獨立自尊ノ主義ヲ實

ニスルヲ得ス人ハ進取確守ノ勇義ヲ缺ク可ラス

第七條 獨立自尊ノ人ハ一身ノ進退方向ヲ他ニ依頼セスシテ自カラ思慮判斷
スルノ智力ヲ具ヘサル可ラス

第八條 男尊女卑ハ野蠻ノ陋習ナリ文明ノ男女ハ同等同社互ニ相敬愛シテ各
ソノ獨立自尊ヲ全カラシム可シ

第九條 結婚ハ人生ノ重大事ナレバ配偶ノ撰擇ハ最モ慎重ナラザル可ラス一
夫一婦修身自室相敬愛シテ互ニ獨立自尊ヲ犯サ、ルハ人倫ノ始ナリ

第十條 一夫一婦ノ間ニ生ル、子女ハ其父母ノ他ニ父母ナク其子女ノ他ニ子
女ナシ親子ノ愛ハ眞純ノ親愛ニシテ之ヲ傷ケザルハ一家幸福ノ基ナリ

第十一條 子女モ獨立自尊ノ人ナレドモ其幼時ニ在リテハ父母コレカ教養ノ

責ニ任ゼザル可カラズ子女タルモノハ父母ノ訓誨ニ從テ汝々勉勵成長ノ後
獨立自尊ノ男女ニシテ世ニ立ツノ素養ヲ成ス可キモノナリ

第十二條 獨立自尊ノ人タルヲ期スルニハ男女共ニ成人ノ後ニモ自カラ學問
ヲ勉メ知識ヲ開發シ徳性ヲ修養スル心掛ヲ怠ル可カラズ

第十三條 一家ヨリ數家次第ニ相集リテ社會ノ組織ヲ成ス健全ナル社會ノ基
ハ一人一家ノ獨立自尊ニ在リト知ル可シ

第十四條 社會共存ノ道ハ人々自カラ權利ヲ護リ幸福ヲ求ムルト同時ニ他人
ノ權利幸福ヲ尊重シテ苟モ之ヲ犯スコトナク以テ自他ノ獨立自尊ヲ傷ケサ
ルニ在リ

第十五條 怨ヲ構ヘ仇ヲ報スルハ野蠻ノ陋習ニシテ卑劣ノ行爲ナリ恥辱ヲ雪

キ名譽ヲ全フスルハ須ラク公明ノ手段ヲ擇ムヘシ

第十六條 人ハ自カラ從事スル所ノ業務ニ忠實ナラサル可ラス其大小輕重ニ
論ナク苟モ責任ヲ怠ルモノハ獨立自尊ノ人ニ非サルナリ

第十七條 人ニ交ルニハ信ヲ以テス可シ己レ人ヲ信シテ人モ亦己ヲ信ス人々
相信シテ始メテ自他ノ獨立自尊ヲ實ニスルヲ得ベシ

第十八條 禮義作法ハ敬愛ノ意ヲ表スル人間交際上ノ要具ナレハ苟モニモ之
ヲ忽ニス可ラス只ソノ過不及ナキヲ要スルノミ

第十九條 己レヲ愛スルノ情ヲ擴メテ他人ニ及ボシ其疾苦ヲ輕減シ其福利ヲ
増進スルニ勉ムルハ博愛ノ行爲ニシテ人間ノ美德ナリ

第二十條 博愛ノ情ハ同類ノ人間ニ對スルニ止マル可ラス禽獸虐待シ又ハ無

益ノ殺生ヲ爲スカ如キ人ノ戒ム可キ所ナリ

第二十一條 文藝ノ嗜ム人ノ品性ヲ高クシ精神ヲ娛マシメ之ヲ大ニスレハ社會ノ平和ヲ助ケ人生ノ幸福ヲ増スモノナレハ亦是レ人間要務ノ一ナリト知ル可シ

第二十二條 國アレハ必ス政府アリ政府ハ政令ヲ行ヒ軍備ヲ設ケ一國ノ男女ヲ保護シテ其身體生命財產名譽自由ヲ侵害セシメサルヲ任務ト爲ス是ヲ以テ國民ハ軍事ニ服シ國費ヲ負擔スルノ義務アリ

第二十三條 軍事ニ服シ國費ヲ負擔スレハ國ノ立法ニ參與シ國費ノ用途ヲ監督スルハ國民ノ權利ニシテ又其義務ナリ

第二十四條 日本國民ハ男女ヲ問ハス國ノ獨立自尊ヲ維持スルカ爲メニハ生

命財產ヲ賭シテ敵國ト戦フノ義務アルヲ忘ル可ラス

第二十五條 國法ヲ遵奉スルハ國民タルモノ・義務ナリ單ニコレヲ遵奉スルニ止マラス進ンデ其執行ヲ幫助シ社會ノ秩序安寧ヲ維持スルノ義務アルモノトス

第二十六條 地球上立國ノ數少ナカラスシテ各々ソノ宗教言語習俗ヲ殊ニスルト雖モ其國人ハ等シク是レ同類ノ人間ナレハ之ト交ルニハ苟モ輕重厚薄ノ別アル可ラス獨リ自ラ尊大ニシテ他國人ヲ蔑視スルハ獨立自尊ノ旨ニ反スルモノナリ

第二十七條 吾々今代ノ人民ハ先代前人ヨリ繼承シタル社會ノ文明福利ヲ増進シテ之ヲ子孫後世ニ傳フルノ義務ヲ盡サ・ル可ラス

第二十八條 人ノ世ニ生ル、智愚強弱ノ差ナキヲ得ス智強ノ數ヲ増シ愚弱ノ數ヲ減スルハ教育ノ力ニアリ教育ハ即チ人ニ獨立自尊ノ道ヲ教ヘテ之ヲ躬行實踐スルノ工風ヲ啓クモノナリ

第二十九條 吾黨ノ男女ハ自ラ此要領ヲ服膺スルノミナラス廣ク之ヲ社會一般ニ及ボシ天下萬衆ト共ニ相率キテ最大幸福ノ域ニ進ムヲ期スルモノナリ

附 言

本書ハ故福澤先生自ラ筆ヲ採リ當代ノ紀念トシテ吾人が現世ニ於テ生存的遵守スベキ要訣ヲ鑄録シ著述セラレタル罕世緊要ノ秘書ナリ然レモ本書タル先生ノ門ニ入り薰陶ヲ受ケ或ハ特ニ師弟ノ交誼深厚ナル諸氏門生ノミニ分賦セ

ラレシガ故ニ世間實ニ稀有ノ著書ナリ竹谷俊一氏ハ傳記ニ揚載セシ如ク先生ニ師事シ交誼深厚ニシテ凡ソ先生ノ著述編纂ニ係ルモノハ悉ク氏之ヲ購求閱セサルモノナシ就中時事新報ノ如キハ初刊以來在在尚ホ愛讀セラレ而シテ慶應義塾基本金等募集ニ當リテハ氏卒先喜ンデ寄捐實ニ數百圓ノ資ヲ捐金セリ惟フニ全國先生ノ門下ニ入り交誼ヲ結ビ薰陶教養ヲ受ケシモノ數万人ニ及アリト雖モ氏ノ如ク師弟ノ交誼識密ニ契盟セシモノ僅少ナルヲ信ス而テ氏カ該書ノ贈賜ヲ受クルヤ一讀處世ノ要領トシテ起居行動ヲ實施シ深ク念頭肝脾ニ感銘シ爾來毎朝起床後右ニ掲グル二十九ヶ條ヲ暗誦シツ、屋宇内外ヲ散足スル事毎テ一日モ怠ラスト云フ編者此逸事ヲ耳ニシ且ツハ該要領通覽ノ榮ヲ得轉々感慨措ク能ハス強テ請ヘ是ヲ卷首ニ掲ゲ觀讀諸彦幸ニ右ノ件々ヲ服膺

桑田藤十郎君	百六十一丁
松村吉太郎君	百六十六丁
佐々木善右衛門君	百七十二丁
船木甚兵衛君	百七十五丁
藤井朝一郎君	百七十九丁
中原孝太君	百八十三丁
西山關一郎君	百八十七丁
小川貞四郎君	百九十丁
西久平君	百九十七丁
小林藤一郎君	二百丁
渡部慶太郎君	二百五丁
布野虎之助君	二百八丁
船越清太郎君	二百十三丁

木下義之君	二百十八丁
向坂弘君	二百廿一丁
渡邊駛水君	二百廿六丁
稻田秀太郎君	二百卅四丁
稻賀龍二君	二百卅一丁
鹽野延之助君	二百卅五丁
藤井又右衛門君	二百卅七丁
石橋長右衛門君	二百卅六丁
曾田治右衛門君	二百六十丁

桑田 藤十郎君	百六十一丁	木下 鏡之君	二百十八丁
松村 吉太郎君	百六十六丁	向 坂 弘君	二百廿一丁
佐々木 善右衛門君	百七十二丁	渡 邊 誠 永君	二百廿六丁
船木 善兵衛君	百七十五丁	稻田 秀太郎君	二百卅四丁
藤井 朝一郎君	百七十九丁	稻 賀 龍二君	二百卅一丁
中原 孝太郎君	百八十三丁	蛭野 延之助君	二百卅五丁
西山 圓一郎君	百八十七丁	藤井 友右衛門君	二百卅七丁
小川 貞四郎君	百九十丁	石橋 長右衛門君	二百卅六丁
西 入 平君	百九十七丁	曾田 治五郎門君	二百六十四丁
小林 藤一郎君	二百丁		
渡部 武吉郎君	二百五丁		
高野 虎之助君	二百八丁		
船越 清太郎君	二百十三丁		

君 雄 重 勘 門

君 一 俊 谷 竹

野坂茂三郎君

佐藤喜八郎君

近藤喜八郎君

江角千代次郎君

君衛兵平口坂

君門衛右甚野星

君 郎 太 秀 田 稻

君 郎 太 吉 村 松

君 郎 四 復 田 安

君 郎 太 清 越 船

三 代 龜 太 郎 君

上 田 孫 吉 君

橋 田 浦 藏 君

渡 邊 慶 太 郎 君

君 蕨 金 谷 西

君 郎 九 並 谷 石

君 太 孝 原 中

君 助 之 虎 野 布

小川貞四郎君

渡邊駛水君

藤井又右衛門君

向坂弘君

原 源 藏 君

石 橋 長 右 衛 門 君

足 羽 章 守 君

船 木 甚 兵 衛 君

嶋根鳥取名士列傳上編

佐藤喜八郎君傳

深田豊市編纂

夙に我國農産の不振を慨し日進月歩の大氣運に乗じて着々革新改善の途を計り特に後進を啓誘して根本的の教養を以て自から任じ米作改良の功者として聲譽噴々雲州地方に高きもの是を佐藤喜八郎君となす君は島根縣の大地主にして弘化二年七月二十九日を以て松江市白瀉本町に生る幼名を金之助と稱す實父を兵之助と曰ひ君は其嫡男たり夙に學を修め雨森精翁氏の門に入り漢籍を研學す明治十三年九月家督を繼承せり

明治元年藩の掛所金錢出納方となり全四年十月縣應用達係を命ぜらる全六年

二月官藩紙幣交換係となり全年八月松江第六區戸長に任ぜられ十二月更に學區取締心得を囑托せらるる全七年九月徵兵募集に際し尽力の廉を以て褒狀拜受全九年地租改正の事あるや拮据勵精其事に當り功勞洵に尠からず官之を賞して慰勞金を賜ふ全十二年松江白瀉小學校の新築を企畫し其構造縣下に冠たり當時褒狀の賞賜あり爾來君感ずる所ありて公職を辭退し専ら心を農事に竭して良稻を滋植せし事を期し研究十年得る所少からず終に地方の物産を改良して實業界裡に卓然たる殊勳を奏するに至れり抑も雲州の地たる沃野千里戸口殷賑山を負ひ海に臨んで天産の富隱然其間に充積して殊に米穀の如きは其收穫豊裕以て地方の特産となすに足れり而も農民多くは頑冥固陋にして開物成務の道と知らず率ね皆舊慣を墨守して改良進歩の實蹟を擧ぐるものなく爲め

に多數の産米も年と逐ふて漸く其實質の粗惡を來し價格沈落して市況振はず有利の天産を擧げて空しく之を庫中に積み其急あるに當てや遽かに賤價を以て之を鬻ぐ而して衆多の農民は徒らに價格の低落に喧囂して互に其窮苦を愴ふるのみ未だ曾て之れが救済の策を講ずるものなきなり君は大に之を慨し自ら奮て其頹勢を挽回せん事を期す思へらく源泉の汚濁を去らずんば支流の清きを求む可らず其根幹を養はずして枝葉の繁茂を得ず米價の昂進せざるは主に其實質の粗惡なるにあり之れが改良に力尽さずして徒らに市況の振ざるを歎ず是れ本を務むるの道と知らざるなりと終に斷乎として其公職を抛ち身を賦畝に投じて自營力作汲々として米質改良の事に拮据し勵精努力十星霜を超ひ後ち獨探推搜の甚だ其研究に便ならざるを知り明治二十年に至り實業教師を

四
聘し翌二十一年米作試験農場を設くる事十有餘地以て生徒數百名を養ふ後ち
是等の人々各其業を卒へ本貫に就き各地の農業を振興して米作改良上に一大
偉績を立たり其勳功は全く君が啓發誘導に依る全年又國內五箇所に育種場を
設け各地の良米を蒐集試作して地方適應の米種を擇取して之を有志に分配せ
り全二十二年雲州地主農談會を創設し之れが會長となり毎歲地主を會合して
稼穡の事を研究す全二十三年大日本農會特別會員となり全二十四年縣内に於
ける土性調査の必要を主唱し之を農商務省地質調査所に稟請す次で米麥競進
會を開き農事に關する各種の陳列場を仮に設け以て小作を獎勵し傍ら老農學
士を聘して農事改良の研究をなす全二十五年四月撰はれて出雲農會幹事長と
なり翌年山陰農事試験場支部創立の請願を首唱し之れが設備に勉む後ち遂に

其功を成し三十年三月に至り農商務省より賞金の下賜を得たり二十八年全國
農事大會に於て全會委員となり建議調査掛長を勤む全廿九年縣農會特別會員
に撰はれ次で中國實業大會に於て會則調査委員となれり此間數年君は全く身
を以て農事振興の事に委ね殊に米作改良に最も其力を致して百万農戸を提攜
し以て其舊習を洗滌せしめん事に務め凜乎たる堅操曾て一日も私事の爲めに
其志業を廢せず懇々として微軀を尽瘁する事十年一日の如し前段叙する所の
職事の如きは只其一斑を擧ぐるに過ぎざるのみ今や君が勵精の効空しからず
して國內の農事は勃然興隆發達を來し殊に米作に至りては最も顯著の進歩を
なして良好精美の稱到る所に高く市價昂進して地方有數の物産となるに至る
其功偉なりと謂ふべし明治二十九年朝廷君が積年の殊勳を賞し綵綬褒章を賜

六
ひ尙ほ三十三年四月大日本農會々頭宮殿下より紅白有功章を贈與し以て名譽
を表彰せらるる人生の至榮之に過ぐるはなし君公共の爲に力を尽せしもの亦多
くして今其梗概を叙すれば明治二十一年五月所得稅調査委員に任ぜらるる翌二
十二年六月松江市會員及び名譽參事會員並に徴兵參事員となり二十四年五月
松江市開設第一回新古美術品展覽會首唱者となり今年十一月臨時世界大博覽
會委員を囑せられ翌年三月松江市會議員長に推任せらるる二十七年日清戰爭の
事あるや君は率先して陸海の軍資三百圓を獻納し有志と共に在韓帝國軍人慰
勞の爲め物品を寄贈せり全二十八年三月陛下軍旅を廣島に督せらるる、や君は
所藏の美術畫幅を乙夜の覽に供し以て其宸襟を慰め奉る全二十九年八月大地
主互撰八束郡會議員となり今年九月日本赤十字社島根支部商議員を囑托せら

七
る全三十年六月縣内多額納稅者の互撰により貴族院議員に當撰九月敕任せら
る全十月島根縣農工銀行設立委員となり全三十二年八月島根縣實業會幹事長
に十月實業同志會幹事長全三十三年三月縣農會名譽會員に撰ばれ全年病を以
て貴族院議員實業會並に實業同志會幹事長を辭職す全三十四年三月大日本赤
十字社特別會員に列せらる是れ其大畧を示せり以て君が如何に地方に至大る
の勢望を有せる一斑を推知するに足る其君が資を公益に投じ財を慈善に散ず
もの多し明治二十四年十二月市の爲めに尽瘁せし廉を以て市有志者より銀盃
を贈與せられしを始とし全三十年學生學資貸與の爲め金五百圓育英會へ義捐
全年七月農事に尽せし功を賞し出雲農會より金製紐掛一對を贈らる全十二月
農事上の功勞により大地主九十余名金杯を贈呈し以て其功績を表す其他貧災

民救恤學校道路改修諸公築等に捐金し或は事功勞の廉により賞杯賞褒狀を拜受せし事實に枚擧に違あらず斯く君が志操の堅實なる其經綸の遠大なる其見識の卓絶なる其氣胆の剛邁なる縣下に錚々として鵬翼を振ふ左に君が絶代の名譽として後世兒孫の紀念たるべき綠綬褒章及び紅白綬有功章の記を掲げて以て本傳の結尾とす

日本帝國褒章之記

島根縣出雲國松江市白瀉本町

佐藤喜八郎

資性實直心を賦畀に竭じ百万佃戸を提擲して耕耘の陋習を洗除し毎歲地主を會同して稼穡の善方を諮議し農師を招聘して生徒を教養し種子を分與し

て良稻を滋殖し財用を惜まず黽勉して倦まず改圖効あり遐邇則倣し土産の米價漸く市に貴し洵に實業に精勵し衆民の摸範たるものとす仍て明治十四年十二月七日勅定の綠綬褒章を賜ひ其善行を表彰す

明治二十九年十二月十九日

奉勅

賞勳局總裁正三位勳一等子爵 大 給 恒

島根縣特別會員 佐藤喜八郎

紅白綬有功章

夙に志を勤農に勵まし地主を會同して良法を諮議し佃戸を扶掖して生産の

増進を期し試験場を置き育種場を設け、研究簡選其法を悉し啓迪誘導孜孜懈
らず私資を捐て、一意斯業の發達を計り且土性調査農事試験場の經設等に
關し唱道贊襄したる所亦尠からず其功勞頗る顯著な事とす仍て茲に大日本
農會の有功章を贈與し以て其名譽を表章す

明治三十三年四月八日

大日本農會々頭大勳位功二級 彰 仁 親 王

竹谷俊一君傳

時世に促されて動き氣運に驅られて起つものは凡庸の常なり動いて人の尾に
附し驅られて走る所を知らず若し夫れ然らず幸に風雲に乗じて殊功を立て偶
好機に投じて奇利を博し假令ば身に台閣の顯榮を荷ひ家に陶猗の巨富を積む
も未だ以て甚だ多とするに足らず吾人の尊敬する所のものは先察の明あり吾
人の景慕する所のものは回天の才にあり蓋し先察の明と回天の才とは古今を
通じて實に求め易からず況んや地方物産の増殖を圖り國家實業の振興を企畫
し超然流俗の意表に立ち終始一貫經營數十年の久しきに及び其間千思万考百
難に耐へ万苦を忍びて經驗を積み確志石の如く毅然として其守る所を失はず
終に能く其功をなし其名を遂げて家を興し國を富まし地方植産の卒先者とし

て國家實業の啓發者として赫々たる威望を博するもの澆季の世君の如き實に罕なり

君は安政三年二月を以て島根縣出雲國八束郡波入村に生る嚴父を甚助氏と曰ひ君は其嫡男たり幼少の時母親を喪ひ父の鞠育を受け生育せり夙に學を好み普通學を研修する數歳學稍々進む尙ほ進んで勤學せんとし遊學の志を抱き已む抱負を再三父に懇請せしも家情克く君として遠隔するを容さず常に其素望の架空に馳するを憾みとす偶々明治十一年讃岐金刀比羅宮へ參詣として郷貫を出づ此機に乗じ枉けて平素の宿望を遂行せんとし歸途東京に至り舊縣知事井關氏の添書を以て慶應義塾に入り夙夜匪懈勤學せり而るに故國より連りに歸郷を促し君をして在學せしむるを許さず折角希望の什一を充たさんと欲す

る念慮も事斯に至り強て在學する能はず慷慨の情勃々涌出し底止するを知らず其極血涙を吞んで其實情を師に訴ふ師深く其思想の堅確なるを賞し双方の所信動すべからざるものあり互に將來を約し辭して郷貫に就けり爾來師事する殊に深く益々師弟の交誼淺からず實に君が師に對し忠誠遵法的精神の深ま他に比類尠し

君人となり天資温厚にして慧智思慮縝密而して善く謀り善く斷じ事苟且にせず其利害得失を講究し其長短輕重を商議し一舉世人の間迷謬見を打破し眞理の所在を指示す其先見の明卓拔の識は以て一世の風潮を排して屹然俗界の意表に出づ明治十六年擧げられて舊意宇郡入江村戸長に任ぜられ學務委員兼勤を命ぜらる全十七年四等郵便取扱となり全十九年三等郵便局長に任ぜらる全

二十二年村會議員に當選爾來學務委員郵便局長村會議員等終始其任に在り多年公共の責務に尽瘁せし功績不尠其他縣會議員等の要職に撰任せらるゝ事數々なるも身専ら實業に委ね貴重の光陰を割りを憂ひ悉く辭して受けず君が事業經營の始末を細叙すれば零々たる冊子は爲めに全編を歿せん故に吾人は今其梗概を記するに止め以て君が卓功偉績の一斑を知らしめんと欲す抑も君は實業振興を以て其天職となし氣血を尽して斯業の發達に傾注しつゝあり由來地方は物産に乏し殊に特有物産たる人參は其製法宜しからざるを以て聲價を失ひ漸次衰頽に歸せんとす君深く之を憂ひ之が製法改良に思慮を凝らし經營畫策する久し元來雲州人參は朝鮮人參に比し非常に價格低廉なり是れたる一に其製法の不良に起因せり故に君其製法を朝鮮製品の如く改良せんと

し明治二十六年朝鮮人二名を招聘し其製法を傳習せしめ好績を奏せり是れ實に君が卒先此學を實行せし全國の嚆矢とす全年朝鮮製の紅蔘と稱する品種を製出するに及び漸次好評を博し輸出するに至りしより製品直輸出せん事を企畫し種々苦心經營する所あり明治二十八年(製品價格二万餘圓)東京に輸送し販路擴張の爲め自ら上京滞在五ヶ月其間百万奔走其施策に肝胆を碎く其極遂に福澤先生並に小幡篤次郎石川幹氏等の斡旋により堂島北町本山彦一氏の紹介を以て大坂の豪商小泉清左衛門氏に雲州人參問屋を依托するに至り雲伯一手販賣を特約するの好運を來せり是れ實に君の苦心經營の功に外ならず爾來益々斯業の隆興に勉め焦心苦慮秋毫も寧日なし明治三十五年五月猿手形人參製法傳習の爲め岩田龜市氏を朝鮮に派遣し滯留數月其製法を研習し傍ら實況

を視察し任を終へて歸朝せり現時其製法を實施し又好績を奏す全年販路擴張并に視察を兼ね竹谷重太郎氏外一名を台灣に派遣せり斯く千々に心慮を凝らし多年寢食を怠れ人參製造業に販路擴張に私資を投じて意とせず斯業の發達を畫すると共に地方の福利を増進せしめん卓功實に居多なり

君又是より先蚕業の將來國家事業として有望なる事を洞見し明治十八年始めて桑園一町六反歩を開拓し蚕兒飼育をなし次て明治二十年私費を以て波入村養蚕傳習所を創設し縣補助を得生徒を養成し大に斯業の啓發誘導に力を致せり爾來日進月歩漸次斯業の隆盛を來し地方の事業となり爲めに福利を増進せしめ今日の進捗興隆を見るに至る其功績高しと云ふべし

其他君の事業として傳ふべきものは元來該地は島嶼なれば一に交通の便は舟

運によらざるべからず而るに船運機關の不便なるを慨し明治二十九年卒先單獨資金を投じ第二第三境九寶周丸の汽船三艘を製造購入し境松江間の航海業を開始し大に地方の便益を圖れり而るに世の變遷に伴ひ漸次企業者續出するに至り汽船の會計今井源吉外一名に譲り方今君の所有に係るものは第二境九一艘なりと云ふ

由來地方は美保神社の氏子なるより養雞は毫もなさざるの慣例なりしが君此蠻説を排し舊慣を脱し地方の迷信を除去せしめんとし明治十五年卒先養雞と始試せしに果して君の卓見に反せず神崇の如きなく却て地方民の收利を増さしるに至れり

尙ほ君が偉大事業として人口に噴々たるものは山野開林事業なり明治三十一

年簸川郡山口村の山林原野四百五十六町歩を購入し造林及び開墾事業を企畫し已に開拓中なり其開拓地には土質氣候の適合せるを以て苹果を栽培し將來竣功の曉には竹谷村となし一村部落を成立せしめ大根島の殖民地と成さん企畫なりと云ふ實に稀有之美學と稱すべし

君尙ほ公共慈善心に富み就中教育熱心家にして純良なる學生の學資に窮するものあれば資を貸與し其目的を達せしむ其學に費す實に數千圓に及へり因に君の資給を得て社會有爲の地位に立つもの幾人なるを知らず德行斯の如し明治三十四年波入村入江區有學資金として數度に數百圓を寄捐其賞として縣知事より木杯一個を下賜せらるる其他公衆慈善救恤等に資を投じ賞杯賞狀に接する數十度に及べり

君殊に社交に長じ全國に知己のもの多し東京報知新聞主筆箕浦勝人氏及び勅撰貴族院議員小幡篤次郎氏等の如き諸名士と交誼を結び廣く社會の實況を觀察し大に得る處のもの尠からず

門脇重雄君傳

語に曰く將門將を出だすと吾人も亦名家の後必ず偉傑を生ずると信ずるなり人悦吾人の言を疑は、乞ふ之を門脇重雄君に鑑みよ鳥取の名士を問は、人必ず指を君に屈せん君の家は世々伯州西伯郡の名門にして其祖先は遠く數百年前門脇中納言平教盛卿より出づ後ち九州の城主菊地家に奉仕し十一世の久しきを経て雲州の城主尼子氏に封と轉ず尼子氏落城後伯州渡村に居と下し移住せり是れ即ち門脇家の元祖なり爾來家世々神官と奉職し系統連綿地方の門閥家にして聲望隆々郷黨に推重せらる君は嘉永三年二月を以て其郷に生れ幼名と顯二郎と稱す嚴父を重綾氏と曰ひ君は實に其次男たり穎悟學を好み藩立尙

徳館に入り文武の両道を研修する數歳學術大に進む年甫十七歳の時鎮撫使西園寺公望氏下國巡視せらる、や君擢せられて嚴君と共に隨行を命ぜらる嚴父重綾氏は高才にして卓抜の識は以て一世の風潮と排して屹然流俗の意表に立つ其職を東京の官省に奉ずるに至り父祖の繼職たる神官は長男重興氏に譲り君を伴ひ官海に身を投じ榮譽あり勅任官に任ぜられ位は正五位を賜り令名赫々として威望と有す而るに明治五年不幸にも病魔に冒され醫藥尽せりと云へども天命運と籍さず遂に逝去せらる、に及び君衷悼措く能はざるの情を制し已むなく郷貫に歸り家督を繼承し十四代の主となり現名を改む爾來君志を實業界に傾注し官海を避けて自營自活の方針を定め一向專念地方殖産興業の發達振興に思慮を凝らせり

君人となり資性温厚學深く博聞強記にして應對寛大而も威儀嚴正相親むべし相犯すべからざるの正容自然に品性と相伴ふて身邊一異彩を放ち秀眉豐頰望めば巍乎とし狎るべからず接すれば温乎淳々として人意を強くせしむ而して能く氣運の趨向を看破し眼を遠大に注ぎ高潔なる理想と清廉なる感情を有して決して一方に偏せず事々物々社會に卒先主動者となり一意専心國家の爲め微軀を尽瘁し敢て勞とせず況んや其運籌畫策能く國運の進捗に伴ひ緩急を大勢に應じて才能智畧非凡に絶し綽々たる寛容と風發たる果斷とを以て縱横大局を理する敏腕は中外廣く知る所なり明治十五年撰ばれて縣會議員に推任せらる。や君辭して受けず翌十六年再撰せらる。も固辭して受けず斯く君が其任を拒み撰に應じざるものは抑も故あり時恰も五州一縣の制を革め鳥取縣設

置の當時にて縣政錯乱心恟々たり故に君は未だ縣獨立として專制する能はざると洞察し斷乎として兩縣合一主義を主張し自己の意志に投合せざるを以て縣政に關與するを欲せず偶々共黨社なるものを組織するに及び縣政益々混乱を極めんとするや君は良民黨となり其蠻説を排斥せんとを期し明治十七年第三回民間の選を受け始めて縣政に參與するに至り専ら復轉論を主唱せり恰も當時他輩より激烈なる反抗を受けしも毫も倦色なく徹頭徹尾己が所信を斷行せんとし只國家ありを知りて身あるを知らざる如く焦慮努力其職に力む時に君突然秘密出版事件違背者として拘留せられ不幸にも鐵窓の下に呻吟するの悲境に陥りしも天何ぞ潔白の士を罪せん僅か十餘日にして青天白日の身となり明治十九年再選せられ副議長となり全二十一年改に選當り復たひ選ばれ

進んで議長に任せらる斯く多年其職に執掌し乱麻せる縣政を統治せしめん卓功は實に君與て力あり全二十四年其任を辭し翌二十三年衆議院議員第一回総撰擧に當り其候補に立ち松並宏雅氏と中原の鹿と争ふ惜哉僅か數票の差を以て遂に敗に歸す二十二年第二回帝國議會開設に際し松並氏其任を辭せしを以て全國中只本選舉區のみ再選の擧あり時に君再び渡部芳造氏と其選を競ひ全然當選の榮を占め席を院中に列するに至れり而るに幾もなく議會解散せられ解職せらるゝに及び郷貫に就き爾來地方實業に従事せり明治二十五年米子米綿取引所を起し理事長となり或は阪口平兵衛氏と協力して米子銀行を創立し其監査役に又土木會社を設起し監査役となり傍ら郷地より濱海面埋立及び陸地の開墾事を起し拮据勵精五ヶ年間を経て成功六万坪の多きに達す是れ實に

超凡の偉行と稱すべし全二十七年日清戦役の際総撰擧に方り再び衆民の輿望により當撰在職三年餘二十九年解散全三十一年再三當撰其任に膺り多年國家治政上に尽瘁せし功績實に顯著なり其在職中特撰せられ帝國第十六議會に於て豫算委員となり第四分課主査となり又帝國製鐵所調査委員囑托を命ぜられ現任せり其他勸業諮問會員并に郡會議員郡會議長學務委員郡學務委員幹事長等數種の各公職を歴任し重且つ大なる責務に尽瘁せし功績最も居多なり先哲曰く一蹶の遭は一智の長なり一變の遇は一事の熟なりと吁其才幹氣力の卓越非凡なるにあらざるよりは焉んぞ此の如きを得んや君乃ち老來經綸の才を揮ひ敏活の資を以て錯節を推斷し遂に幾多の難局を既頽に整理し歩々序を逐ひ着々實を認め政理をして民力と相負かざるらしむ而も政友會員中錚々

る令聞を博せり吁君の如きは政治家として實業家として共に現世稀有の傑士と謂ふべし

君又義侠心に富み慈善救恤公共事業に資を捐て、吝ならず故に木杯賞褒状を得る數十度に及へり因に記す君の家は祖先傳來稀世の名刀あり優に地方の閥閥を証するに足る

坂口平兵衛君傳

内尊外卑の時代に生れて來世氣運の趨向を看破し眼を遠大に注ぎ事々物々社會に卒先主動者となり一向專念利用厚生の要道を立て物産を増殖し事業を興起し拮据經營着々功を奏し卓功と偉績を重ね國力伸張の大本を培養し國利民福の一大増進を圖り地方公共の福利を進め以て名を當世に博し巍々たる聲望を有し遂に一世の推尊を受くるもの薄志弱行の世阪口平兵衛君の如き實に稀なり

君は鳥取縣の多額納稅者にして字は意清幼名清太郎と稱す安政元年六月九日を以て伯耆國西伯郡米子町に生る幼より穎悟夙に學を好み碩儒今井方齊氏の

門に入り漢籍を修む稍々長するに及び家難に遭遇し年甫十三既に家政に與かり父ヲ扶け東奔西走業務に勉む明治十四年二月父君病に臥するを以若冠にして家督を繼ぎ父の名を襲つて平兵衛と改む此川父君終に鬼籍に入る於是乎君一意専心家運の隆盛を畫し僅か十星霜間に着々功を奏して資産を増殖し信用を博し明治二十三年に至り既に縣下多額納稅者互選資格を備へしなり而して今君が名譽公職に擧げられたるもの、大概を叙すれば明治二十一年米子魚商株式會社社長を始めとす全二十二年米子町會議員に全二十四年米子漁船會社社長米子製糸合名會社社長鳥取縣汗入會見兩郡所得稅調查委員全縣勸業諮問會員及び米子商工會々頭に全二十五年會見郡米川普通水利組合議員米子町外七ヶ村學校組合議員に全二十六年會見郡兼久堤防水害豫防組合議員日本赤十字社正

正社員及び修身社員並に全社鳥取縣汗入會見兩郡委員米子米綿取引所理事に全二十七年株式會社米子銀行頭取に全二十八年山陰生命保險會社監査役に全二十九年破産管財人西伯郡會議員全郡名譽參事會員に全三十二年郡會議長に累選せられ又三十四年八月倉庫會社監査役に選任せらる是より先き全三十年九月遂に多額納稅者互選に大多數を占め貴族院議員に勅任せられ全年十一月地方的團體として勢力ある丁酉會々長に推選せらる是れ其概畧にして如何に君が地方人士の間に卓然たる勢威と名望を負へる手を推知すへし以上は君が歴任せし公職の概要にして更に又前代より承繼せる商業及び君が事業經營の始末を叙せん

木綿は舊時西伯郡地方特有物産にして就中坂口家出貨の冬印木綿は京坂北海

地方に於て最も聲價を有し常に木綿市場の標準を示せし前代平兵衛氏の時に當り慶應年間鳥取藩に於て大坂藏屋敷の金融を計らんが爲め地方木綿業者の大坂に回漕すべき木綿は之を荷爲替となさしめ金員貸附するには藩行の紙幣を以てし而して着荷大坂に於て領收すべき正金は之を直接藩の藏屋敷に收むべき方法を設け尙大坂の間屋に依頼するに鳥取地方の木綿業者より貨物を輸出するに方り其着否の如何に拘はらず現金引渡の事を以てせり而るに間屋は先づ阪口家の保証を得んとを要求せり則ち君の信用は鳥取藩に便する所なるを以て藩は其保証を君に得て遂に荷爲替の實施をなし金融界に尠らざる便宜を與へたり時に藩其功を賞し將さに之を表彰せんとせしも當時米子は藩の長臣荒尾家の私封に属し本藩直接の行賞は荒尾家陪臣の妬心を懷く所なるを

以て藩亦君の爲め躊躇せる折柄偶々君の家へ洋織を大阪に購ひ珍奇一時世人の耳目を聳かしたるを以て爲めに攘夷論者の物議に懸り危殆且夕に迫り一時賞に代ふるに罰を以てせらるゝの不幸を來し門戸を閉ぢ商業上の名義は悉く嗣子に改むべきの藩命を蒙れり時に君年齢十三幼冲の身を以て止むなく業務の衝に膺り奮勵木綿業の發達を計りしと雖も時勢の變遷に伴ひ需用頓に地に墮ちしを以て明治二十二年斷然之を廢止せり

人參は從來我國輸出品の一なりと雖も山陰地方は獨り松江藩の秘法特業にて民業たるを許さず是を以て隣藩鳥取地方の如き其秘法を知る能はざりし時勢一變して藩廢置縣后民業に移りしを以て明治七年以來君嚴父と謀り率先して之の製造を創始せしと雖も失敗續々として到り非常の損失を招き明治十

八年に至り稍々回復を得たりと雖も君大に感ずる所ありとて明治十九年以來大に其の製造を縮少せり而して君が斯業に尽瘁し其製品は明治十四年内國勸業博覽會に出陳して有功賞を授與せられたり醬油醸造は舊來の家業にして盛に營み來りしが明治二十八年一家商業の基礎を牢くし一族與に永遠の利益を享有せしか爲め合名會社阪口商店を組織するに及び之を會社事業に移せり爾來販路大に擴張して現時鳥取島根は勿論遠く北海道中國九州地方に及び猶益々擴大の氣運熾なり二十八年第四回内國勸業博覽會に於て有功賞を授與せらる

明治三十一年二月更に坂口商店の規模を大にし新たに宏大なる倉庫を適當の地に設け酒造業を創始せり而して從來の日本酒に就き衛生上害毒尠からざる

を憂ひ特に優學なる技師を東京より聘し熟練なる杜氏及び助手を神戸より招き百事學理的に循據して大に改良を加へたるは普く世人の知る所なり

米及綿は縣下重要な物産にして之を他に輸出するに必ず京坂或は北國商人の手に頼るの迂策を執り地方商人の進んで之が輸出を計るものなし君大に之を憤慨し奮然自ら其衝に當ると全時に輸出物の品質に就きて大に精撰せしめて綿の如きは其聲價を揚げ伯州綿の名江湖に噴々たり従て産額も亦増加す爾來各地方共に米綿の輸出日々隆なるに従ひ明治二十三年に至り米價非常の騰貴を告げ各地細民の窮狀極まり爲めに細民の激昂する所となり米穀輸出業者中不慮の災厄に罹るもの尠からざりしと雖も當時君は倉庫を開き廉價販賣を行ひ細民救助の方法を尽したるを以て君獨り其災厄を免れたりと云ふ而して

由來米綿商は到底投機的商業の範を脱せざると又後繼者の續出するを見て斷然之を廢せり

明治二十六年取引所法令の發布せらるゝや米綿價格の標準を定め又市場の融滑を計るの方法として之れが設置の必要を認め自ら主唱者となりて主務省に請願し二十七年遂に其功を奏して米子米綿取引所の設立を見るに至れり
 時世の進運に従ひ我邦紡績事業の發達に伴ふて印度支那産出の棉花熾んに輸入するに及び地方製出の綿は之れが爲めに壓せられ漸く衰頹の徴あるを洞見し之に代ふべき栽培物の必要を生ずるに當り恰も好し全國養蚕生糸業の勃然として興起し國家經濟上外國輸出品として之が右に出づるものなきを以て地方農民も亦當路の勸誘に従ひ頻りに桑園を開き蠶業の發達を圖れり是に於て

明治十八年君自ら發起者となり蠶業傳習所を設け次で二十人取製糸機械を設け爾後改良を加へて五十人取となしたるも成蹟未だ完全なるを得ず爰を以て君奮然郷貫を出て信州上州其他斯業の最も盛大なる地方を巡覽し歸來直に六十人取の蒸氣機械を据へ始めて完全なる製糸を得るに至れり是れ即ち山陰道製糸家中蒸氣機關を備へたる濫觴にして明治二十九年以來百五十人取となし又三十三年春二百人取となせり此間二十年五月神戸聯合共進會に出品して三等褒賞と今年九月鳥取聯合共進會に三等褒賞を二十五年五月奈良聯合共進會に二等賞及び木杯一個を二十六年九月因伯聯合共進會に二等褒賞並に木杯一個を二十八年第四回内國勸業博覽會に進歩二等賞を授與せらる
 舊時藩主池田候米子商界の金融を便にせんとし爲替座を設け金穀の貸付をな

せしも廢藩後二三商業家の共有に移り勸業と改稱して爲替營業に従事せしか
 薄資なるが爲めに山陰道中天賦の商業地たる米子の商業界の機關たる能はず
 遂に明治二十年に至り之を賣拂に方り君之を購入繼續し爾來大に商界の便益
 を計る全二十七年更に金融機關として同志を糾合し株式會社米子銀行を設立
 し推されて頭取となる

米子の魚市場たる魚座は元録年中藩の創始に係るものなりしが廢藩后は全く
 民業となり後ち更に會社事業に變更して繼續數歲稍々振興の色ありしも明治
 二十一年の頃に至りて保持の策立たず殆んど將さに瓦解の慘境に陥んとする
 に至り加ふるに因襲の久しき市場一般野蠻的弊風の存するあり動もすれば法
 律の外に逸し乱暴狼籍至らざる所なく早晚終に支離潰裂の憂を見んとするに

至れり當時君は撰ばれて社長となり二三士と險を冒し危を凌ぎ侃々諤々遂に
 整理の功を奏し基礎を鞏固にして爾來年五割の利益配當を得せしむるの盛運
 に達せしめたるが如き一に君の力による也故を以て會社其功勞を賞し社規に
 基き金時計一個を贈る

君元來生を商家に稟け幼より唯商事に關せしを以て眼中更に田畝の事に暗し
 然るに明治十八九年金利は高く米價は低く爲めに地主の困難極度に達し耕地
 の地價券面の半額に至らざるの時に當り君熟々以爲らく方今米價下落の爲め
 に耕地の収入は減じて少額なりと雖も斯如の下落は蓋し異數にして早晚反動
 期あるを攪破し耕地購入の時機當さに今日にありと是より續々耕地を購入せ
 り果せる哉君の先見に違はず漸次地價騰貴し遂に明治二十三年に至り縣下多

額納税者の列に加はり現今關縣其右に出づるものなし又君縣下荒蕪の地多きを
 見て遺利を拾はんと欲し現時日本海に瀕する弓濱海面埋立及び山陰に巍
 峨たる大山原野の開墾に従事し既に開墾を竣りしもの未だ數十町歩に過ぎず
 と雖も數年を脱せず當に數百町歩を得べしと云ふ實に非凡の偉行と稱すべし
 明治三十一年米價暴騰の爲め細民非常の慘境に陥り困苦に迫るを見て君傍視
 するに忍びず獨力奮て之れが救助の策を講じ地方米價を下落せしむるの目的
 を以て大に外國米を輸入し細民の爲めに特に原價の幾割を減し之れが供給を
 致す是れが爲めに倏ち地方米價一頓挫を來し地方幾万の生靈其德澤に浴する
 實に大なり

君是より先明治二十三年頃地方特有物産綿花の盛況を見るや之を地方に利

用するの方法を企畫し稻田秀太郎氏等と協力料合し紡績會社を組織せんとす
 拮据經營實地を研究調査せしも僻陬の地に於て是を設置するの不利なる事を
 看破し頽廢せり時恰も大坂平野紡績會社より連りに株主たらん事を君に勸告
 せしを以て則ち一千株を購入し大株主となれり爾後全國紡績會社の株券募集
 に應じ現時日本紡績會社の大株主たり其他地方の有ゆる會社銀行等ハ素より
 大坂商船株式會社の大株主として全國著名の會社銀行等に君の關與せざるも
 のなしと云ふ

君人となり資性温順事に耐へ物に忍び哀憐の情に富む加ふるに明敏豁達常に
 私營を捨て、力を實業界に尽し卓偉の功績を奏し聲譽德望關縣に冠たり而し
 て身は貴族院議員の榮班に列し家名愈々天下に顯はれ優に山陰道中商界の重

鎮として目せらる。もの實に偶然にあらざるなり
人々を驚かすものあり。其の才力も亦
人々を驚かすものあり。其の才力も亦
人々を驚かすものあり。其の才力も亦
人々を驚かすものあり。其の才力も亦
人々を驚かすものあり。其の才力も亦
人々を驚かすものあり。其の才力も亦
人々を驚かすものあり。其の才力も亦
人々を驚かすものあり。其の才力も亦
人々を驚かすものあり。其の才力も亦

松本歡次郎君傳

剛腸鐵の如く、慧眼炬の如く、一舉一動靈敏にして能く雷電を驅り石火を碎く若し夫れ腔中萬斛の經綸に至りては優に山陰實業を擒縱して綽々餘裕あり今や其聲望巍然として實業界に卓出せり君は鳴根縣出雲國松江市寺町の人天保十年七月二十八日を以て伯耆國西伯郡渡村に生る父を民三郎と云ひ其先は尼子恒久の遺臣なり二子あり長子を寛敬と云ひ君は其二男にして幼名を繁太郎と稱す君幼にして父を喪ひ母に養はれしも十一歳母亦病んで歿す此時に於て君早く己に尋常兒童に異なり徒らに嬉戯を事とせず氣宇豪邁して老成人を壓し機敏事に處して宜しきを失はず殊に算數の才に富み常に勃々として經營の志

あり年甫めて十六出で、宗家松本を嗣ぐや自から家政を執り處理毎に宜しきを
 得藩命じて君を年寄役に擧ぐ後ち庄屋となり治績大に見るべきものあり又
 曾て藩命により地押調査に奔走して頗る功績を擧ぐ此の如くなるを以て君が
 良牧の名四方に喧傳し藩大に君に望を屈せし君が抱負の大なる焉んが醜觀
 として小成に安んずるを肯せず歳二十二にして實家に復歸し茲に始めて君が
 有爲の才を商業に用ふるの端を啓けり何となれば當時實家の戸主たりし家兄
 寛敬君は出て、郡の公務に執筆し家事は省み暇なく其整理を擧て君に一
 任したればなり即君其家産を利用して質屋造酒煉油蠟燭製造及び綿木綿鉄米
 穀賣買を創始し所謂る追駈船手の商業に身を委し躬自から精勵奔走して益々
 其事業を擴張し收利甚多く家事秩然として整ひ大に舊觀を改む是に於て家兄

大に悦び其利潤を分つて君の勞を慰す因て君其胆畧を用ゆ大に爲す所あらん
 とし使ち之が時機に遭遇せり時維れ元治元年にして君歳二十六當時郷地舊會
 見郡は草綿の名産地にして其産額甚饒く各外國人頻りに之ヲ購入するを以て
 其年々輸出する所の額亦大なり其産地に於て通常一本(六貫目)參圓前後の相
 場なりしもの長崎に於ては五圓乃至六圓に昇騰し其間非常ノ差異を生ぜり君
 夙に之を偵知し以爲らく吾れ此機に乗じて之を長崎商人に牙保せば其得る所
 の利尠らざるべしと乃ち嚮きに得し小資本を投じて草綿を買ひ之を長崎に賣
 り更に其資を運轉して又之を買ふて賣り斯の如くする事數回漸く其資を積で
 大に外商人と之が直接取引をなし以て彼我貿易上巨利を博するの時機を待ち
 し何ぞ圖らん君は外國密貿易の禁を犯せりとの嫌疑に因り他の二十餘名と

共に捕縛せられ鳥取藩に拘留せらる。抑も君が此賣買を營みしより郡の草綿製産者は爲めに其産出額の増加して收利漸く大なるより闔郡常に相悦び切に君が取引媒助の功を稱せし。偶々君の此奇禍に罹るを聞くに及て衆大に其無辜を哀れみ因州武士の暴慢を憤らざるはなく君が護送せらる。に及て道路目送ける者數千人父老君が豁達峻厲の眉宇を望で潜然として涙を垂る蓋し君の身此に至れるものは因州藩士の妬心によるものにして固より其罪に非ざるを以てなり君は神色自若として毫も驚く色なく従容として獄に下り唯天日の照光するを待し。遂に一糺問なくして其年十一月十七日釋放せらる。是に於て君再び青天白日の身となりと雖も其嘗て辛苦經營したる事業已に水泡に属し其資本も亦全く蕩尽せらる。依りて君大に前途を苦慮し一日家兄に請ふて曰く不

有欲の素志固と聊か期する所あり唯万一誤りて累を阿兄に貽す事あれば阿兄の面目ありて九泉の下父母に見ゆるを得んや依りて願くば歡次郎が籍を立せしめよと其心決然として奪ふべからざるが如し家兄乃ち其請を聽き是に於て君僅かに貯する處の金を懐にし飄然故國を去り東西に流浪して其年の大勢に注目し窮かに時機の到るを待つ適々明治初年太政官札の濫發せらる。や其紙幣と金銀貨の相場に非常の差を生じたるを見て此機に乗じて大利を博せんと欲し京坂其他の地方に奔走して種々の計畫を運らし數々利を擧げて遂に數千圓の資をなすに至れり明治三年會ま因伯の海上に帆立員の浮出する極めて饒し君之を聞くなり乃ち一攫万金の快を致さんと欲して直ちに是を買入に着手す蓋し君は此員を清國にて伊平員と稱し同國人の嗜好する所にし

て需要極めて多きを知るが故なり然るに當時島取藩は君が此舉あると見るや俄かに密賣を禁じて藩獨り之を買占め其額五十万圓に達す是に於て君大に望を失ひしが偶々清國市場に於て其價格大に下落し販路壅塞したるが爲め藩吏大に窮し使を遣はして君に策を諮ふ君輒ち之が策を建て且已れ亦之を分つて大に利する所ありたり明治五年始めて松江市末次本町七十九番地をトして居を移す松江藩の物産たる人參栽培製造事業の拂下あるや乃ち機失ふべからずと爲し大に奮起して東京大坂松江の間に往復計畫し幾多の競争者を排して遂に之が拂下を受くるに至れり然れども此事業を繼續するには少くも十四五万圓の資本を要し到底君が資力の支ふる所にあらざるを以て大に苦心計畫する所ありしが遂に大坂の豪商五代友厚氏に説て數万圓を借入其代金上納其他の

費に供し大に斯業を起せり依りて明治六年七月松江市寺町九十九番地舊人參役所内へ轉居し爾來君は令室と共に専心一意人參製造に従事せしが其製品を大坂に輸出し五代氏に謀りて之を清商に販賣するに當りて忽ち一條の紛議起れり抑も人參の嚮きに松江藩に於て之を製造販賣するや之を買ふの清商等藩を信用せるの故を以て一々斤目を檢せず單に商標によりて賣買し來りしも其實一斤に付二分の斤量を増せり斯くの如く清商は從來舊藩を信用して商標賣買をなせりと雖も此業一たび君の手に移ると聞くや彼れ量目の検査を主張して止まず君乃ち之に言て曰く若し不足せば之補償するに於て何かあらん而して若し幸に量過多なるときは其差金を求めざるべからずと因りて悉く之を檢するに皆其定量に起過す故に君其差金を求む清商遂巡言を左右に托して應せ

ず五代氏傍らに在り大に怒て曰く不足あれば償わしめ過多なれば知らざる如くし抑も何等の不正何等の狡猾すと君慰諭して曰く請ふ之れ彼に與へよと氏肯めず君強ふる事再三氏の怒漸く解け其意を君に問ふ曰く是れ小利を譲りて大信を得るなり向後彼れ我れを信ずる事必らず厚からんと氏大に君が胆識あるに服す爾後君斯業により大に收利あり因りて其收支の決算を了り五代氏に元利を償還して尙剩す所凡二万圓乃ち之を折半して其一半を五代氏に贈りて恩を謝す五代氏辞して受けず君百方言を尽し辞氣頗る決する所あり氏狂ぐべからざるを察し竟に快く之を受け而して自から之を取らず悉く當時の關係者に頒與す君も亦他の一半を當時創業に使用せし輩に頒賦し毫も私に收むる所なかりしは時人以て雙對佳話となして之を稱せり是より君の名聲は關西の都鄙

に喧傳して豪商大賈の間に著はれ明治九年自から上海に航して人參販路の實況を視察し全年十月清國に直輸出をなして大に利益を收む全十年神戸港へ製人參販賣の爲め出張店を設け益々斯業の隆興に力む故に國産として普く海外に輸出するの隆況を來し地方の福利を増進するに至りしは實に君の力に因る是より先明治七年二月舊意宇郡出雲郷村字内馬銅山を工部省より拂下を受け全八年全村字別所越に於て銅山採掘業を開始す明治十四年農商工諮問會々員となり十五年一等郵便局取扱役を命せらる十七年九月勸業諮問會員に二十年十一月舊秋鹿外二郡所得稅調查委員に選ばれ二十二年日本赤十字社正社員に列す全年四月松江市會議員に全年六月松江市所得稅調查委員となり爾來其選に洩れず全年九月株式會社松江銀行の創立に與

り選ばれて其頭取に推され多年行務に鞅掌し行運益々旺盛を極む全二十三年八月松江市収入役に任せられ多年市の財政を明にす全二十六年十月十五年烈風天を拂ひ猛雨地を洗ひ樹木を摧き屋を倒し諸川漲溢して遂に全市を浸し人民として難を寺院校舎に避けしむるの慘況に際し君は挺身此危難を救はんと欲する切なりしに恰も好し官命の下るより即ち扁舟に乗して安來境に急航し貯藏の米穀を購ふて歸松し直ちに實費を以て市民に供給せしに恟々たる人心は俄然緒に安んせり當時米商等は奇利を獲んとて時々刻々米價を暴騰せしめたるもの此實費賣買に依りて大に屏息するに至れり後ち縣知事は此美舉を賞し褒狀を下賜す二十七年島根縣下諸印紙元賣捌許可せらる二十七年六月松江商業會議所創設其會頭に選ばれ二十七年株式会社松江米穀取引所創設せらる

、や其監査役に全年十月山陰生命保險會社創設其監査役となり全二十八年八月松江電燈株式會社創立に與かり其監査役選に任せられ二十九年四月株式會社松江米穀取引所理事に當選全年全月株式會社山陰貯蓄銀行創設其頭取に推さる全二十九年九月日本赤十字社島根支部商議員を囑托せらる全三十一年出雲特有物産たる人參の聲價を失墜せしを慨し之を挽回せん事を企畫し同業者團結を勸誘して遂に全年八月十一日組合組織の認可を得る九月一日より之を實施せり而して組合長は養息巖三氏之を擔任す全年物産たる八雲縮京坂に於て大に需用を起し九州地方に於ても販路を擴張するに至りしも機業者只眼前の小利に眩惑して粗製濫造を事とせしより頓に價格暴落せしのみならず遂に之れが供給を仰かざるに至る依て全年五月君は家族として機業場を設け鋭意

之れが挽回の方法を計り精巧品にあらざれば販賣する事なからしめたるに漸次製品多きに及び横濱商館より米國向の縮縮を注文するに至り日増隆盛と來し現時數十名の工女を督して製織に勉む又全業者は協同して一定の精品を輸出せざる可からざるを以て全三十二年八月五日出雲綿縮製造同業組合の認可を得今年九月一日より之を實施本年一月十一日松江精練場を設立し益々斯業の發達振興を來せり斯く多年身を實業界裡に投じ十年一日の如く寧日なく微軀を尽瘁し尙ほ終始數多の公職を歴任し公利公同を旨とし地方共同の利福を進めし卓績實に巨大なり而して君繁劇極まれるの故を以て其從來家舗に屬する質屋其他の商業の如きは之を養嗣龔三君に一任して復た與からず又君人となり義氣を重んずるが故に事苟くも公共の利害に關するあれば直に私財を擲

て義捐寄附救助等をなし之が爲めに褒狀賞品を受く幾何なるを知らず又親戚故舊の零落せる者に資を助け永久の計を授けたるもの幾千圓に至るを知らずと云ふ其子孫の餘慶するべきなり今や君鉅大の富榮を一身に鐘め其令名愈々顯わると然る所以のものは君が胆畧機敏に由ると雖も又能く艱難を忍んで辛苦經營したるの結果にあらざるを得んや吁君の如き敢爲決行の氣概は常に萬難を排して良果を收め著効を奏す所謂山陰の偉傑なるもの實業界に於て君を以て冠とす

並河理二郎君傳

方今紳士紳商と稱するもの多くは敏慧奇智の士一朝風雲に會して名を天下に爲すもの或は父祖餘慶の恵に浴して徒らに陶猗の富に甘ずるもの外ならざるなり而も前者は多く其契行久敷狎して志の陋劣なるもの往々にして足らず其言行常に一致を欠いて紳士の徳とする處社會の尊ぶべき價值を欠如す後者は優柔不斷只其餘財を擁して他に驕り成るは地方公共の利害に關する事あるも之を視る事吳越の如く能く義に訴へて之を散じ國家の大利を計るものに至りては殆ど罕なり斯の如きもの家に陶猗の富あるも之を國家有用の事に用ゐざれば亦何の益あらん蓋し兩美の粹を具備して猶鞠々乎たる今や國家の輕重

を双眉に荷ふて立つ雄然として地方政界の覇權を執るものは當世の豪農並河理二郎君なる乎

君は島根縣の多領納稅者にして萬延元年八月十一日を以て出雲國能義郡安來町に生る地方の豪族たり家世々農と業とす舊幕累代郡役人等を勤めし閑閑にして嚴然たる家格を有す嚴父を三郎兵衛氏と曰ひ君は其の二男たり幼にして學を好み郷儒山村勉齋先生に就き漢書を修む漸く長ずるに及び學業大進先輩凌をびんとす嚴君亦君の學才の非凡なるを愛して教養甚た力む

君天資豪邁幼にして大志あり人後に落るを喜はず君が年少にして一世睥睨するの志氣は恰も寸身の虺尙能く人を呑むの氣あるか如し格式嚴密威權以て人を攝伏するの慨あり君が臺老を見ること尙儕輩の如く其言はんと欲する所は

侃々諤々直言して忌憚する所なく當時一般人士が唯命是從ふて貴顯に對するの間に立ても毫も屈するの氣象は早く已に頑童理二郎の時に於て顯はしたり而るに幼時不幸にして早くも父君を喪ひ兄君又天死の不幸に遭ひ家督を繼承し十三代の主となり専ら家務に與る傍ら一意専心地方殖産興業の發達振興に思慮を凝せり而して今君が事業經營の始末を叙すれば零々たる冊子は爲めに全編を投せん故に吾人は今其の梗概を記するに止め以て君が功偉績の一部を知らしめんと欲す抑君は實業振興を以て天職となし氣血を尽して斯業の發達の事に傾注しつゝあり由來地方は天賦の商業地にして綿花及船舶の出入に依り營業しつゝあるもの幾百人なると不知然るに時世の進運に従ひ綿花の不振を來し漸く衰頹の徵あるを洞見し之に代ふるに蠶業を以てす明治十三年卒先

桑園を開拓し蠶兒飼育をなし次て明治十六年佐々木善右衛門岩田源右衛門等と共に製糸工場を建設し工女を募集し製糸業を開始し大に斯業の啓發に力を致せり然るに世の風潮に際し漸次衰頹來し損失不尠爲めに多年の苦心全く水泡に歸せんとするの悲境に遭遇せり然れども君尙堅忍不撓益々勇を鼓し一身に引受け焦心苦慮大に擴張を計り獨力蒸氣機關を購入し挽回せん事を期す果せる哉君の企畫其の宜しきを得漸々斯業の隆盛を來し地方一大事業となり福利を増進し今日の盛事を見らるに至りには天運の然らしむる所と雖も又以て君が多年の苦心經營の效果に外ならず其功績實に高しと云ふべし

君又地方實業の不振を慨し金融機關の設備緊要なるを認め地方豪農原本氏等と相謀り安來銀行を明治三十年の度に起し地方金融の圓滑を計り公益を増進

するに力む今や本縣下幾多の銀行中尤も有力銀行の好評を博するに至りしは全く君の力に外ならずと云ふ

以上は君の事業經營の一二にして更に君の公職の始末を叙せん

明治十五年戸長を始めとし學務委員徴兵參事員所得税調査委員縣勸業諮問會員縣會議員及赤十字社終身社員株式會社安來銀行頭取株式會社島根縣農工銀行監査役等の各公職に歴任し明治二十六年縣の第二區より推されて衆議院議員に當選の榮を占め席を衆議院中に列ずるに至れり而るに幾もなく議會解散の厄あり改選の際候補を鈴江泰藏氏に譲りしが三十年三月再び衆民の輿望により當選全年八月又再度の臨時總選舉に方り又も多數を以て當選の榮を荷ひ爾來政界に身を投じ一意專念國家の爲め微軀を尽瘁し敢て勞とせず況んや其

の運籌畫策能く國運の進捗に伴ひ緩急を大勢に應じて才能智畧非凡に絶し綽々たる寛容と風發たる果斷とを以て縱橫大局を理する敏腕は中外廣く知る所現に政友會員として錚々の聲高し現時島根縣農會長の要職を帯び熱誠其責務を執掌せり

斯く多年實業に政事に身を投じ熱誠殆んど麻食を忌れて國家民生の爲め心身を勞し毫も意とせず幹旋盡力私利に汲々たらず地方公共の福利を増殖せし卓績は實に顯著なり

君人となり資性温順聰明慧智思慮縝密にして善く謀り喜く斷し事理を攪破するに敏捷なる才識あり殊に義氣に富み哀憐の情深く過ぎぬる明治二十六年烈風天を拂ひ猛雨地を洗ひ樹木を摧き屋を倒し諸川漲溢して將さに堤防破壊せ

んとす此の不事に際し幾多の災民餓死せんとするの惨況を呈せり是より先き明治十九年の水災に米穀非常に暴騰す漸く君の貯藏米穀百俵を以て一時の急を救済せし事あり今又以前に倍加する此の惨況を見るに至りては袖手傍觀するに忍びず到底自分貯藏米位にては万民の餓死を救ふに足らずと時恰も君町長の職に在るを以て安來地方米商人を呼招し説くに救恤を以てす傍ら自資を投じ在米數千俵を買入れ實費を以て郡民に供給せしに恟々たる人心は俄然緒に安んじ郡内の人命を救護せり故に各地の米商等ハ奇利を得んとて時々刻々米價を騰貴せしめしも此の實費賣買に依りて大に屏息せり是れ實に君の美舉中の尤も美舉となす加ふるに胸宇豁達にして邊幅を修めず且夕不測の活機に對し其趨勢に隨ひ常に心を世局に傾け會て一日も國利民福を忘れず躬行率先

私營を捨て力を一に公共に盡し非凡の偉功を奏す今や君の令聞德望共に宇内に冠たり故に地方の事々物々凡て君の關與を竣たされば平和治定を欠くの感ありと云ふ亦以て君の威望を推知するに足る今や漸々輕佻の浮薄なる澆季の世君の如きは實に得難き英傑と稱すへし

西谷金藏君傳

政治の事業の於ける猶ほ車の両輪鳥の双翅に於けるが如し其孰れを偏重し孰れを偏輕すべからざるは本と是れ天下通論なり而も世人は徒らに之を口に之を筆にし其理を知て其實を擧げず能く之を語り之を談するも未だ能く之を實踐射行するもの稀なり豈に國家の爲め浩嘆長息せざるべけんや而も個中獨り西谷金藏君あり政治家として善へ國家民生の爲め權義を主張し實業家としては善く縣下産業の發達を企畫し徭々孜々國利民福の爲めに務めて毫も寧日なきもの、如し斯の如くにして後始めて天下を經偉すべく又斯の如くにして財界を整理すべし吁君の如きは政治家として實業家として共に現代稀有の士

と稱すべし偉なる哉君は鳥取縣の大地主にして安政五年八月を以て伯耆國東伯郡北谷村に生る幼名を龜吉と稱す嚴父を万市氏と曰ひ君は實に其嫡男たり幼より穎悟夙に學を好み儒者山田先生に従ひ漢籍を研修する數歲造詣する所淺からず成童にして已に頭角を同輩中に卓出す明治十二年一月公撰戸長に任せられ村政の釐革に力む爾來終始各種の公職に累選せらる今其主なるものを擧ぐれば北谷村外七ヶ村聯合戸長に明治十七年三口村外二十一ヶ村戸長に其他村會議員村組會議員所得稅調查委員徵兵參事員郡會議員等の要職に當り其責務に尽瘁せし功績尠からず明治十七年縣會議員に當選せしも先輩を選出せしめんが爲め辞任せり明治二十二年市町村制實施之際撰ばれて村長に任せられ村政を執掌し治蹟見るべきもの多し明治二十三年縣會議員に再選縣政に參

與するに至れり爾來改選毎に其撰に洩れず明治二十八年四月衆民の輿望により衆議院議員に當撰席を院中に列するに至れり爾來政界に身を投じ一意専心國家の爲め大に尽瘁し巍々たる令聞を博せり爾後今日に至る四回の改選都度大多數を以て當選の榮を占む其在職中各種の調査委員豫算委員部長等ノ顯職に選任せられ各職責を全ふし卓功偉績實に多大なり殊に地方重要問題たる鐵道布設に關しては明治二十一年以來熱誠東西奔走斡旋至らざるなく焦心苦慮十年一日の如く尽瘁せらる故に多年の苦心經營の效果經驗を重ね鐵道の事理に通曉する君を凌くものなしと云ふ又明治二十三年地價改正問題の起るや君各地方を遊説し大に尽す所あり

其他農工銀行監査役各會社銀行等の重職に當り或は地方の事業一として君の關與を竣たさるなし是れ其概畧にして如何に君が地方人士の間に卓然たる勢威と名望を負へる乎と推知するに足る現時政友會員中錚々たる聲望を博せり君殊に公共義侠心に富み純良なる學生にして學資に窮する如きものあらば自資を投し後進徒弟の養成に力む又地方人士の就職等を望むものあらば悉く君斡旋の勞を執り目下東京に於て諸官省會社學校等に奉職せしめつゝあるもの實に數十人の多きに及べり實に非凡の德行なり

其他貧民救恤諸公築等に捐金する尠からず就中縣立倉吉農學校移轉に際して敷地及び捐金なし木杯並に金員の賞賜を受く尙ほ其他木杯賞褒狀に接する數十度に及べり

君人となり資性聰明慧智胸宇豁達にして邊幅を修めず殊に義氣に富む而して

其識量の卓越なる恰も芙蓉の聳然として群山を抜くの觀あり今や君の輿望たる郷地は素より江湖に厚く君と輸贏を争ふもの死力を尽すと雖も未だ決して凌駕する能はず吁今や漸々人心の輕佻に流れ浮薄なる澆季の世君の如き高潔の士果して幾人かある

近藤喜八郎君傳

寒梅嚴霜を凌ぎ權花晨に咲くは自然の理のみ人生の刻苦して臥薪嘗胆の勞を積み其後惠を享くるものは是れ又自然の意向敢て怪むに足らず唯千金富裕の身を以て敢て驕らず能く其業を守り國益を謀るの人の至ては天下の異數たり吾輩喜八郎近藤君に於て之を見る

君は鳥取縣士族にして伯耆國日野郡根雨村大字根雨宿の人天保九年八月を以て其家に生る

君人となり温厚にして勤儉を尙び父母に事へて善く孝を盡し長上に交りて悌の道を守り又雇人に對して慈仁を施し而して己は質素を旨とし仮初めにも奢

修に流る、事なく歳出入を計りて一年間の豫定を立て家計を治むる事最も嚴重なり

君夙に父祖の遺業を紹ぎ砂鉄の採取及製煉業に従事し、沙鉄製鑛溶鑪九ヶ所煉鉄工場二十三ヶ所を有しけるが其業依然として舊法を脱せざるを憂へ之を改良せんと志し數年全力を尽して百万考案を廻らし之れが改良發達に心慮を凝らせり明治二十年に至り工場を増築して氣鑪及び旋風器マシイチ風送器を裝置し氣鑪に臺を据付けて煉鐵業を擴張し又從來製鑛溶鑪の器械に用ゐたる天秤吹子等を廢じ水力を以て「トロンプ」又は風送器を運用して是れに換へ二十八年六月に至る迄の間に溶鑪六ヶ所煉鉄工場十四ヶ所に應用しけるに其產品の從來に比して優良なるのみならず勞力を省く事一日百五十余人の多きに上

り木炭其他の雜費を省く事亦尠からざれば改良の目的を達するを得て同業者皆之を倣ひ共に其利益を受くるに至れり又鑛夫と云ふもの概ね烏合無頼の徒にして今日ありて明日あるを知らず賃金を貪りて酒色に費やし妻子は饑に泣くも更に顧みざるもの多きを憂ひ各工場に取締規則を立て品行を慎み節儉を重ずべき事實金十分の二以内を貯蓄して他日不時の用に充つべき事必ず兒童を就學せしむべき事業務の爲め負傷し又は疾病に罹りたる時は工場より施療する事等を定め勵行して遵守せしめければ其使役せる二千餘人の鑛夫自然に感化して淳良の民となりしもの甚だ多くなりしと云

君又商賣取引を正確にして購客の信用を博するに力を用ゐる其他不使にして運搬困難なるにより大坂に支店を開置し需用者の便を圖るなど用意厚かりけれ

ば從來の取引地は云ふ迄もなく各地到る處好評を得て皆其商標に信用を置くに至れりされば近年は東京海軍造兵廠横須賀造船所大坂砲兵工廠等の御用をも勤め就中其鋼鐵の如きは二十七八年の役に於て大に其用をなせりと云ふ又開墾殖林の事業に意を留め明治十年日野郡米譯村大字如來堂原野の開墾を企て山腹に三十餘町の墜道を穿ちて溪水を引き水田拾四町八反餘歩宅地及畑壹町五反余歩を墾成し小作人十五戸を移して耕作の業に當らしむ其他同郡江尾村大字江尾及二部豊榮の二村に於て凡う拾町歩余の水田を開き尙着手中のもの多し又同郡は山野多く平地少く地勢上自ら殖林に適するも森林稀にして良材に乏しきを以て君率先して熱心に栽培の事を經營し専ら杉檜の蕃植を圖り杉苗を植付くる事既に十三萬七千六百余本に及べりと云ふ

君尙公共事業に力を盡し且つ貧民を救助せし事數々なり或は學校の建築道路の改修又は官衙公衙等の新築に際し多きは三百圓少きも五拾圓を寄附して褒賞され又凶歳の節水火災の時等に窮民貧民に施與せし事幾回なるを知らず明治二十年海防費へ金千圓を献納して銀製黃綬褒章を下賜せらる又二十七年には第四師團へ軍馬一頭を献納せし等特殊の卓行と稱すべし元來君の居村根雨宿は山間僻陬の地にして諸般の事物啓發せず交通不便なりしに近來漸く市街の形を成し百貨集散の要地となり商業亦繁昌するに至れり是れ全く君の力に因るものにして爲めに地方の公利公益を増進せしめし偉績實に顯著なり今や君の令名は噴々として四方に喧傳せられ家巨万の富裕を重ね其聲望郡中に冠たり明治三十年七月官綠綬褒章を賜ひて其善行を表彰せら

る是れ實に至大の光榮と謂ふべし

前記叙し來るものは唯君の性行の一斑を示すものにして之を細叙すれば零々たる冊子は爲めに全卷を歿せん故に編者は爰に其一端を掲げ欠如せり願ふに天下の廣き身を行商に興して巨万の富を致し商海の一方に雄視するもの甚た多しと雖も君が篤實と温厚とを以て能く一世を始終し令徳永く郷民の腦裡に浸染せる君が如きものは稀なり嗚呼

野坂茂三郎君傳

汎く町村の便宜を謀り公共の利益を圖るもの所謂一見識あるの士と云ふべし獨り自己の營利に汲々として資財を得るもの何う之を實業の人傑と云ふことを得人を利し己を利して而して後ち始めて紳士とも紳商とも英傑とも云ふを得べし茲に野坂茂三郎君其人ありと云ふべし

君は文久元年二月十一日を以て伯耆國西伯郡米子法勝寺町の自邸に生る幼にして地方村夫子に従へ漢學句讀習字算術等の教授を受く小學校設立に及び入校し或は豫科學所に入り勤學す幼時群兒と嬉戯するを好まず好む所は只學術に係る事のみを以て無二の樂みと爲す故を以て學舎私塾に在るも學業順に進

み成童にして既に頭角を同年輩中に卓出せり
 君が抑も始めて新事業を興したるは人參製造業とす是の業たる藩時に在ては
 米子城預り荒尾氏の家業なりしも廢藩後民業に歸せしに明治の維新舊習漸々
 改まるの時に當り内地の需用は更に皆無の姿となり只清國輸出の一途と爲り
 たり隨て價格は頓に低落し諸會社は漸々解散する者あり爰に於て君は情ら斯
 業の前途を慮るに仮令頑固に保守なる清國人としても永年需用を保せざるも
 尙幾十年の後にあらざれば人參贈答の習慣廢止の事あるべからずと思惟し盛
 に製造の業を起し尋て便宜の土地を購ひ廣大なる製造場を建築し專志精意製
 造法を研究して其擴張を圖りたり君の銳眼遂に其正鵠を誤らず年一年隆盛に
 赴き今や其の自園の産出のみを以て製出し又一株の他作を藉らず伯州の人産

社と云へば同氏の社たる問はずして知るべし其産出地たる伯雲の間三十七ヶ
 村五十一町余歩數里二十有余里の延長に涉り其の耕作製造に従事する數百人
 にして一年製出品高二万圓を下らず貧民之が爲めに生計を助くる者少からず
 と云ふ

君は又慈善心に富み有爲の人にして學資に乏しきものあれば自ら資を投じて
 修學せしめ今現に君の學資に依りて高等官に昇るもの誰彼數人あるに至る其
 他貧民救助の事項掲ぐるに暇あらず

明治十五年吳服商を始めて營み全十七年米綿仲買商を兼業せり元とこの地舊
 藩時に在ては微々たる一市町にして高尙の織物店なく稀に有るも高利を貪る
 の弊あるを以て君は特有の慈善心を以て大坂地方の商人と結托して薄利を以

を決して復た議員に列するを好まず

斯く銀行及び數多の會社を創立せしめ地方にまた貯蓄銀行なくして細民貯藏の念に乏しく假令其念慮あるも郵便局貯藏の手續を厭ふことあるより全地の豪富有志の士と協議して三十年に於て株式會社中國貯蓄銀行を創立し三十四年米子倉庫株式會社を創立し出入物價の便利を圖る等凡う地方事業として一も之が主動者たらさることなし其他學校建築道路修繕改作等惣て公共事業に献金補助盡力の廉鮮少なからざるを以て其都度官の褒賞に與り社中の賞贈を受くるに至ては十を以て數ふるに至る當今現任せる家業は呉服商を本業として人參製造並に米綿仲買商にして公職は第十四人參會社長及破産管理人(二十六年六月以來)米子商工會副會頭(廿七年已來)山陰生命保險株式會社取締役

(廿八年一月已來)米子町會議員(廿九年十二月已來)米子卷葺合資會社々長株式會社中國貯蓄銀行頭取鳥取縣西伯郡々會議員名譽參事會員米子倉庫株式會社々長西伯郡蠶絲同業組合組長(三十五年)等の十ヶの重職を兼任し其他公共事業に關し聊も有益と認る事は或は發起人と爲り或は賛助員となり敢て辭する所なし家業は弟吉次郎氏の擔任する所ありといへ共公務の余暇尙其要を統轄し夙夜實に寸晷の閑なきも更に倦怠の意なく孳々屹々事を處して滯澁せざるもの明敏豁達にして身心を公事に殉じて顧みざるもの君亦得がまの人傑なり

君資性温厚深沈言語少なく身体偉大ならずといへとも一瞥尊ぶべきの威容あり又至孝にして友愛も亦厚く内に數十萬の財産を處理し外二十數の公職を帶

るの身にして老父年既に七十茶花酒着其好む所に任せ優に餘年を樂ましむぬも重要な家事公職の進退等一に其指揮に須ひ一も逆ふ所なく老親の側に待する謹直至誠孝順の容貌人をして感動せしむ店員も自ら其感化を受け相親み相勵み客に接する恭順にして假令一錢の品なりとも決して疎畧に接する等の事なきは本市中他に見ざる所全く君の薰陶に因り然るものなるべし

君常に言ふ多年の積思終に遂ぐるの時至り鉄道既に布設第二等停車場と爲りて上方の交易近きに在り利器既に備はれば之に應ずるの臺盤無かるへからず之を受くる者は何ろ土地の富饒を圖るに在りうの之を欲する市區改正に在り市區の不便なる工業振はず商業亦盛ならずと是に於て市區改正を町會主張し鉄道線路以南の田圃を擧げて米子町擴張せんとし既に三十四年以來改修工事

に着手するに至れり

君は全町村上常藏氏の次女を娶り三男一女を擧ぐ皆幼にして各學舎中に在り

中澤治兵衛君傳

苦心粉骨身を公同の事に委し村に郡に縣に政治上亦大に尽す所あり効勞顯著衆民其徳と慕ふもの實に中澤君の如きは稀なり君は島根縣出雲國仁多郡横田町の人嘉永二年六月を以て全郡全村大字稻原安部氏の家に生る爲四郎氏の五男なり元治元年中澤助七氏の養嗣となり明治五年五月を以て其家督を相續せり君幼にして郷儒に従ひ學を修む後名原淳齊氏に就き漢籍を研修し奮勵貞義を究む家号を前澤屋と稱し農を業とす財資富裕なり明治二年庄屋役に撰べばれ藩政革新以來副戸長より戸長に進み次で仁多大原郡書記に任ぜらる明治二十二年町村制實施に際し輿望により村長に推撰せられ全二十六年滿期退職せ

んとするや村民の懇請により再び推されて二十九年に至るまで其任に在り教育に農事に土木に其他或は基本財産を増殖する等其績枚擧に遑あらず其任務中仁多郡戸長惣代に選任せられ土木事業資本金取扱主任となり又大に財を理す村會議員學務委員郡會議員郡參事會員徴兵參事會員等法定後其任に當らざるなく明治二十三年以來は前後三回縣會議員の選に當り縣治に參與す又赤十字社正社員となり水難救濟會委員村農會會長郡農會幹事産牛馬組合副組長八雲銀行重役等の諸務に與り百端の事務に執掌し繁忙を以て敢て辞せず孜々能く勉む而して君又義氣に勇み町村費及諸公築費其他諸種の義捐により木杯の賞に接せしもの二十數回賞狀金品を得しもの五十數回の多きに達し又教育上の功勞としては文部省より功績狀を受くるの榮あり村長辞任の時の如きは村民

其徳望を頌し感謝の意を表し三つ組銀盃並に金員を贈り其微衷を致せり殊に
明治三拾四年十月二十二日藍綬褒章を賜ふに至る如き以て君の録たる其名
聲の皎たる其偉績を知るへし眞に地方有數の人傑と稱すべきなり褒章の記は
君の績を確にし編者の不及を補ふに足るを以て茲に之を抄録す

褒章之記

島根縣出雲國仁多郡横田村 中澤 治 兵 衛

資性濶達曾て屢々村政に従ひ尋て村長に選まる、事兩度力を學校の設備に
用ひ校舎を増築して兒童の就學を督勵し學資を蓄積して教育の基礎を鞏固
ならしめ或は桑園を闢て養蠶製絲の業を起し牧場を設け牛馬の改良を圖り
杉檜苗を栽培し林業の發達を奨め道路を修理し埭堰を更造して交通灌漑を

利し河線を改鑿し堤防を修築して水害を防ぎ其他基本財産を増殖する等洵
に公同の事務に勤勉し効勞顯著なりとす依て明治十四年十二月七日勅定の
藍綬褒章を賜ひ其善行を表彰す

江角千代次郎君傳

富裕の家に生れ多くは皆放縱逸隋祖宗の膏血に成れる貴重の資財を蕩尽し其極終に家を破り産を失つにあらんば則ち鄙吝陋劣極りなく徒らに父祖の遺田を固守して失ふざらん事を務め利用厚生の道を知らず殖産興業の策を立てず一意守銭の賤奴となるに終る慨するに耐ふべけんや獨り江角千代次郎君地方門閥の家に生れて聲望巍巍々堅操能く其遺産を保ち鄙吝に失せず陋劣に流れず汎く眼を財界の消長變轉の上に注ぎ國家治政に實業に心を身勞し利國濟民の殊功を立て多年の尽瘁能く時運の向ふ所を達觀し終に以て今日の盛事を見るに至る其功績永く芙蓉峰頭の雪と共に千秋消滅する所なかるべきなり偉なり

哉君は島根縣の大地主にして元治元年十一月を以て出雲國簸川郡出東村に生る父を權藏氏と曰ひ君は實に其嫡男たり幼にして穎悟夙に學を好み小學全科を卒へ進んで濱中學分校に入り勤學三年全校の廢せらるゝや去て碩儒雨森精翁氏に従ひ漢籍を研修する數年學大に進む而れとも學尙は足れりとせず到底邊鄙の地に在りて志を立つる事能はざるを洞察し常に遊學の志を抱き自己の抱負を父君に懇請し連りに東都に遊學せん事を期す而れとも如何せん家政の事態は君の遠隔するを許さず慷慨措く能はざるの情を制し已むなく涙を吞んで宿志を托け若冠にして家政整理の任に當り傍ら普く和漢の書籍を蒐集し自宅獨習に汲々たり

君人となり聰明胸宇豁達にして邊幅を修めず胸襟卓落小節に拘はらず嶄然と

して光風霽月の如く夙に郷黨に推重せられ徳望隆々名聲藉甚たり君齡漸く丁に達るや擧けられて村會議員となり爾后繼續今尙は其職にありて大に村政の釐革を圖る或は徴兵參事員等に選ばれ各責務に尽瘁し功少ならず明治三十一年衆民の輿望により島根縣第三區より推されて衆議院議員に撰任せらる爾來政界に身を投じ一意事心國家の爲め尽す全年有志二十有餘名と糾合し日吉俱樂部の組織成立するや少數にして能く志想を貫徹し而も大政黨の間に介立して大になす所ありし爾後偶々新政黨の組織せられんとするや君奮然崛起して其擧を賛し百万奔走斡旋の勞を執り幾もなく帝國黨の創立するに至り當初僅かに二十有餘名と盟じ各互自己の才能を理會し意志を糾通し絡始一貫該黨の爲め尽瘁せし偉績實に顯著なり現に黨中の重鎮として目せらるるも亦故な

きにあらず其自信力の強き千鈞の石をも動かす能はず其志操の堅實なる其經綸の遠大なる其見識の卓絶なる其氣胆の剛邁なる代議士中稀に見る所なり明治三十五年八月改正撰擧法實施せられ衆議院議員総撰擧に當り君又大多數を以て當撰の榮を占む全年十二月議會開散せられ本年三月臨時総選舉に際し衆望一に君に歸し又其選に洩れず以て君が地方に聲望を博じ郷黨に推重せらるるを推知するに定る現時湖西銀行頭取其他各種公會の會長副會長等の重任を帯び其職責を全ふす君尙は公共慈善心に富み貧民救恤諸公築等に資を捐するもの多し故に木杯賞褒状を受くる枚擧に違あらず

岡崎運兵衛君傳

世の資産家と稱する者を見るに自ら其餘財を擁して他に驕り或は地方公共の利害に關する事あるも之を見る事吳越の如く能く義に訴へて之を擲ち天下の大利を計る者に至ては甚だ罕なり吁家に陶猗の富あるも之を國家有用の事に用ひざれば亦何の益あらん苟も財に余力あり身を衆望の繫るものは須らく眼を遠大の計に注ぎ義の存する所に依て事を斷じ率先盡力以て公利公益を計畫すべし是れ能く他衆を利し併せて自家亦其益に霑ふもの國家經濟の要旨亦此に外ならざるなり岡崎運兵衛君の如きは實に資産家にして義氣に富み政治に實業に教育に一として世の爲め盡さざるはなし加ふるに惠愛仁慈能く惻れみ

能く恤くしむ人皆德澤に潤ふ郷黨に尊重克く一身一家を忘れて公共の利害を計るものと謂ふべし苟も身地方の上流に立つものは君の傳を續んで戒むる所あれ

君は島根縣の大地主にして松江市堅町の人嘉永三年六月を以て簸川郡稗原村の豪農高橋の家を生る佐十郎氏の嫡男にして幼名權作と稱す年甫十歳出て、岡崎家に入り養嗣となる家督を繼承するに及び襲名運兵衛と改め五代の主となる君幼より學を好み夙に普通學を修め後ち儒者澤野修輔中村守手の両氏に従ひ漢籍を研修する數年學大に進む君人とをり天資温厚慧智度量寬雅胸宇豁達にして邊幅を修めず其德望卓識優に非凡に絶し聲望隆々郷黨に推重せらるる今君が公職公事に就き之を列擧すれば市會議員縣會議員縣會議長徵兵參事員

所得税調査委員等終始其任に當り或は各會社銀行等の重任を歴任し各責務に
 尽瘁せし事蹟著し明治二十三年衆民の輿望により島根縣第一區より推され衆
 議院議員に任せらる爾來政界に身を投じ大成會に入盟し意想を糾通し絶大な
 思想を以て端然社會の實相を洞見し時世の進歩を鑑み國家的觀念を以て大
 に盡す現に縣下帝國黨の重鎮として社會に目せらる君の經歷は獨り政界に於
 ける而已ならず地方公共事業に力を尽せしもの不尠今其一斑を示さんにはよ
 り先單獨巨資を投じ社會羅針盤の機關たる山陰新聞を創起し又松江日報組織
 の際君又與て大に助力せり尙ほ明治三十四年十一月數万の資を投じ松陽新報
 を刊行し其社主たり斯く吾縣下新聞の創立設計は實に皆君の力による其他地
 方實業並に工業の發達振興を圖り機業を起し或は蚕糸業等凡て主唱者となり

地方民に公益を與へし卓績は眞に多大なり現時農工銀行頭取の重任を帶び創
 立以來多年行勢を執掌す斯く數十星霜の間身を公事に委ね私財を投じて意に
 介せず毫も倦怠の色あるを見ず淳々進化せる時勢の潮流に伴ひ能く人心の機
 微を見推移する方嚮を執る其氣宇の磊落なる度量の洪濶なる一舉一動世人の
 目を矚する處而も擢て、公共慈善心に篤き行動に至りては君の特行にして仁
 以て下を厚ふし寛以て用をなし微を扶け壞れたるを興起す嗚呼今や人心の輕
 佻に流れ浮薄なる世君の如きは實に鷄群中の一鶴と稱すべし
 明治三十五年八月衆議院議員総撰擧に方り又市民の囑望により再び當選す君
 は就中該博富胆尤も堅緻の腦力を蓄へ恪勤直亮の士稀に見る所今更ら吾人の
 喋々と要せざるなり

星野甚右衛門君傳

世界の趨勢を洞見し、後來の方針を定め、心算己に成りて、着々歩武を進め、以て衆人の迷夢を攪破す、其識量の卓越なる恰も芙蓉の聳然として、群山を抜くの見あり加ふるに、容姿爽諷、學止輕快、屹然流俗の意表に立つもの、星野甚右衛門君とす。

君は島根縣の大地主にして、慶應元年十二月を以て出雲國簸川郡鵜鷺村に生る十一代甚右衛門氏の三男にして、幼名を信三郎と稱す、家督を相續するに及び、父祖の名を襲ふ、幼より穎才を以て稱せられ、知人號けて神童となす、夙に學を好み、小學の科程を卒へ、爾後儒者雨森精翁氏に従ひ、漢籍を研修す、次て早稻田專門學

校に入り、法政理財の兩科を專攻する年あり、明治二十三年規定の科を卒へ、郷貫に就くや、幾もなく徵兵參事員に推さる、事次て縣會議員に撰ばる、事亦前後二回議場に秀才を競ひ、其辨論爽快、氣宇泰然として、確乎不拔なる宛も狂瀾怒濤の中に卓出して、動かざる如き優に、儕輩に傑出するに至り、聲望赫々として、遠近に轟く、明治三十一年衆民に推され、島根縣第一區より撰出衆議院議員となる、爾來政界に身を投じ、地租増徴問題の起るに際し、憲政本黨に盟し、同志を糾合するに當り、他輩より劇烈なる反抗を受けしも、敢て意とせざるもの、如く志操を變せず、意向を渝へず、一定不變の目的を以て、暇々として、其方針を愆らす當に、其大に志し、其の細を捨て、其急を先きにし、其緩を後にし、専ら國家民福を利し、而して決して身の爲めに謀らず、正義公道を重んずる行動は、眞に代議士中の秀逸とし

て令聞高し君の興望たる郷地は素より江湖縣下に厚く君と輸贏を争ふもの死力を盡すと雖も未だ決して凌駕する能はず君の殊行は政界に於けるのみならず實業界に於ても又沛然勢力を有し斯界の重鎮として普く衆庶に錚々として鵬翼を振ふ其重なるものを列擧せば星野合名會社の主宰として多年中海及び湖上の航業に従ひ現時山陰汽船株式會社の取締役として大に海運の手腕を揮ふ君が航業大家たるの名聲は未だ揚ぐるに足らずと雖も此地方に於ける航業は實に君に於て亦其一部を掌握するを見る又鑛業に熱誠力を注ぎ自ら鑛主となり地方公益を謀り或は簇川銀行を起し其取締役となり又出雲商業銀行を創立し其頭取となり商界の爲め金融を圖滑ならしめ斯界を裨益するもの少なからず其他地方の事業一として君の與からざるなく然れども是等は寧ろ君の本

領にあらざるをへきを察す

君が風采貴公子的なる英胆豪氣なる將來益々天成無盡の精力を發揮するあらば其大成や吾人は刮目して待つものなり

君又博愛仁慈の志篤く貧災民救恤其他諸公築等に資を吞まず故に木杯賞褒狀下賜せらるゝ事枚擧に遑あらずと云ふ

足羽章兮君傳

來世氣運の趨勢を看破し眼を遠大に注ぎ起死回生を以て其職とし救世濟民を以て其分とす醫業本と是れ仁術なりとは古人已に之を言へり夫れ醫業已に仁術なり乎博愛の及ぶ所公に私に國に民に一視同仁社會を待つ事一家の如く世人を遇する兄弟の如く之を大にして一同縣の福祉を圖り之を小にして一郡村の利益を進む斯の如くして初めて自家の職務を全ふせるを見るなり足羽章兮君民瘼救養を以て其業とし博愛仁慈鄉黨郡村の人名を濟ふもの幾計なるぞ知らず加ふるに多年地方公共の事に尽瘁し夙に令名を遠近に轟かすもの實に曉星の穹霄に微々たるが如く夥多の醫中僅に見るのみ偉なる哉君は文久二年十

二月を以て鳥取縣伯耆國日野郡二部村に生る家嚴を純亭と曰ひ君は實に其五男たり家世々刀圭を以て業とし地方屈指の門閥家にして鄉黨に推重せらる兄君四氏不幸にも在學中病氣に冒され悉く天死し遂に君父祖の業を繼ぎ明治二十二年家督を繼承するに至れり

君幼にして穎敏學を好み教を郷校に受け小學の科程を卒へ次で毛利八彌氏に就き漢籍を修め大に得る所あり明治十二年雲州松江に至り佐々木先生の設立に係る私塾に入り醫學研修する四年規程の業を卒へ明治十六年笈を遠く東都に負ひ順天堂及び濟生學舎に入り醫術を修むる二星霜勉能く其蘊奥を究む明治十八年郷貫へ歸り自邸に於て醫術開業普く患者の診療に従事せり爾後再三上京益々斯業の研練を遂げ學術大に進む

君偶々感ずる所あり翻然志を決し居宅に守番を置き妻子は別居せしめ自ら書生三名を同伴し東京に至り駿河臺に一家を借受け自炊をなし斷然己が抱負を實行せんとす而るに其勤學中不幸にも脚氣病に罹り苦悶臥床如何ともする能はず在學一年有餘にして寓所を去て轉地療養をなせしも病根全癒容易ならず恰も故國より頻繁歸貫を促され遂に已むなく素志を枉げ學途にして郷貫に就き専ら療治靜養に力めしより幾もなく病氣快復を見るに至りしも君が志望は架空の妄想に歸せしは實に君が終生の憾みとする所なり然れども積年の勉學經驗を重ね學術洽博優に先輩を凌ぐ今や地方の醫伯を以て推尊するに至れり君又地方公共の事に力め盡せしもの頗る多く曾て地方徴兵醫員に撰ばれ在職再四其職責に務む其他鳥取縣地方衛生會員醫師組合取締等多年其職に在り地

方衛生の事に缺學毫も寧日なし現時日野郡私立衛生會副會頭並に評議員所得稅調査委員(再撰)郡會議員參事會員次で議長に選ばれ尙ほ學校醫等の要職を累任せられ各責務を尽瘁して嘗て醜聞を流さず君尤も教育に熱誠心を注入し大に尽心せし卓績あり由來日野郡は二十九ヶ村聯合して高等小學校を根雨に設置し溝口に分校ありき故に遠隔部落のもの不便甚しく爲めに數里を隔てたる處のものは通學するもの殆んど皆無の有様なり斯くては到底地方教育の普及を期する事難し君大に之を憂慮し慷慨の情禁する能はず決然起つて動議主唱者となり時の村長青山善作氏と協力拮据經營幹旋の勞を執り難局を排し百方奔走の効果遂に明治三十二年に至り二部村に高等小學校を創設するの運に至れり爾來地方教育上頓に發達を來し従前の如き不便を免るゝに至りしは

君の力に因るものにして此美學は郡内の濫觸なり爾後續々各村に學校を設置するに及び漸く教育機關の完備を告ぐるに至れり實に非凡の特行と稱すへし君人となり天資温厚實直能く事に耐へ物を忍び殊に慈善救恤心に富む加ふるに明敏豁達才を果斷に決し學識洽く技術又非凡に卓出す醫業に従事する茲に拾有九年の久しきに及び方今君の令聞は遠近に喧傳せられ德望隆々財又裕なり君の經歷は尙ほ爰に止らずして未だ卓功偉績の叙記すべきもの多し然れども編者は其煩累に屬するの觀あるを以て故らに之を割愛し性行の一斑を記し本傳の局尾を結ぶ請ふ幸に諒せよ

上代金之助君傳

始、終、公、共、の、爲、め、に、身、を、勞、し、心、を、竭、し、自、家、の、興、廢、を、後、に、し、て、一、郡、村、の、利、害、を、先、に、す、所、謂、天、下、の、憂、に、先、つ、て、憂、ひ、天、下、の、樂、に、後、れ、て、樂、む、も、の、上、代、其、人、乎、

君夙に地方物産の増殖を圖り國家實業の振興を企畫し超然流俗の意表に立ち終始一貫經營數十年の久しきに及び其間常に時運の向ふ處を達觀し千思万考百難を耐へ万苦を忍びて經驗を積み確志石の如く毅然として其守る處を失はず終に能く其功をなし其名を當代に博し國を富まし家を興し地方殖産の卒先者として國家實業の啓發者として赫々たる聲望を有するもの澆季の世君の如き實に稀なり

君は島根縣の大地主して嘉永三年六月十日を以て出雲國大原郡春植村の郷に生る家世々農を業とし傍ら商を營む舊幕累代庄屋役を勤め閥閥にして嚴然たる家格を有し郷黨に推重せらる嚴父を谷左衛門氏と曰ひ君は實に其八男たり幼より穎悟徒らに群兒と戯遊するを好まず成童にして父を扶け家業に勉め勵精曾て怠らず兄君六氏共に夭死の不幸に遇ひ故を以て君起つて家督を繼ぎ七代の主となる而るに家運一時衰頽を來し殆んと資産を蕩尽せんとするに當り君奮然家運を挽せん事を期す餘財を擁じて醬油酢醸造烟艸釐附油製造業を開始し黽勉夙夜商事に力めしより商業其圖に當り日増に繁榮を致し資財を増殖するに至れり偶々明治の初年大政官札の濫發せらる、や金銀貨幣の相場に非常の差異を生じ權衡を失するに當り此機に乗じ奇利を博し益々資財を殖し

家運漸く恢復を見るに及び一意専心業務に勉め資を利用し傍ら勤儉節守家政を理め遂に今日の地位名望を得るに至りしは好運の然らしむる處なりと雖も一に君の勤勉力行其運籌畫策の宜しきによるものなり左に君が前代より繼承せる商事及び自己の事業經營せる始末の梗概を叙せん
由來緒は地方の産物にして父祖累代其栽培製造に力め其製品は美濃國に輸出し上代緒と稱して聲價を博し益んに製造せり君の代に至り世の變遷に従ひ販路漸々狭少需要減と收支償はざるを以て之を廢止せり
蠶業は國家民生の爲め永遠に裨益する事業たるを攪破し明治十二三年頃桑園を開拓せんとし先づ桑苗を購入し村落各人に五本宛を配付し衆民を勸奨斯業の發達を計る然れとも桑苗高價にして庶民多くば其購入に苦しみ意の如く斯

業上に著しき隆興を見る事能はず君大に之を憂ひ武田万之助狩野半三郎氏等と料謀し種々苦心拮据經營の效果遂に桑苗接根法を發明し之を村民に傳習し實施せしに好績を奏し順に桑樹の倍殖を見るに至り各所より其良法たる事を聞知し傳習を乞ふもの日増に加はり一時村内百五十名の多き桑苗接根教師として四方に派出するに至れり爲めに地方の蠶業の發達順に進み殊に接根法により村落人民に巨多の福利を與へしは君の苦心尽瘁に因るものなり

茶業は前代より開始せりも其製法及び茶園の栽培等宜しからず殊に製造法の如き粗製濫造爲めに聲價を失ひ有名無實の有様となり有爲の物産をして徒らに棄顔に歸せしむ君又此現象を傍視する能はず斯業を隆興せしめん事を畫し茶園二町歩を拓き傍ら同業者を勸説して其良法を究め茶業組合を組織し益々

奮勵せり君撰ばれて組合長となり爾後島根縣茶業組合長に拔選其重任に與かれり明治十八年有志を糾合し茶業傳習所を郡立として創設し山城より教師を招聘し生徒を養成傳習せしめ稍々發達を見るに至りしも未だ其不完を免れず故を以て優等生一名實地視察の爲め派出し全二十一年再び傳習所を開き三名の教師を雇入れ斯業の研習を積み翌二十二年前全斷開所なし主に其製造法を習練せしむ開期間殊に君は衆庶を勵まし精細に心を用ひ順便なる方法に循ひ序次を差へず斯業に執掌努力實に肝胆を碎きし効勞空しからず着々功を奏し遂に百端改良せる事を實用し改良茶を製出するに至れり所謂大原茶是れなり今や其販路たる國內は素より遠く京坂地方に輸出して好評を博せり即ち大原茶の斯く盛況を來せしは擧て君の勉勵經營の宜しきに起因せるものなり

明治三十二年有志と協力して大原銀行と大東町に創設し衆望を負ひ頭取に撰ばれ地方金融機關の原資流用を計り其責務に鞅掌して毫も滯滞の患なからしむ其他稻作改良の如き又其衝に當り尽瘁せし卓績あり

公務に關しては君多くば之を避け辞任せり然れとも偶々衆民の輿望辭するに由なくして己むなく就任せしものを擧ぐれば村長郡會議員郡農會員勸業委員所得稅調査委員農事試驗員等の要職に推され身繁劇寸暇もなきもの・如く又赤十字社終身社員たり斯く多年實業に身を投じ熱誠殆んど寐食を忘れ心身を勞し介意せず斡旋尽力私營に汲々たらず主に地方公共の福利を増進せしむるを以て唯一の娛樂とす眞に得難き英傑ならずや

君人となり資性温順慧智敏豁にして思慮深沈事理を攪破するに敏捷なる才識

あり殊に義氣に富み哀憐深く加ふるに胸宇豁達にして邊幅を修めず變轉極りなき活機に對し能く時運の向ふ所を達觀し常に心を世局に傾け替へ一日も利國濟民の要途を忘却せず事に當るや公平無私躬行卒先全力を實業界に注ぎ卓偉の功績を奏せり今や君の令聞は江湖に喧傳せられ聲譽德望雲霞の如く集まる眞に郡内唯一の名望家として其威望恰も郡の羅針盤の如し故に一舉一動君の統理參與を俟たざれば凡ての事々物々和協鎮定を失ふの現象あり語に曰く智畧あるものは能く其機を利し才幹あるものは能く其勢を制すと君の才畧能く其機に投じ勢に乗ずるの力あるものと云ふべし

安田復四郎君傳

男子の事業は須らく偉大なるべし一家の業を興すは一郡の利を進むるに如かず一郡の利を進むるは一國の富を増すに如かずと乞ふ吾れは進んで其最も大なるものを取らんと是れ復四郎安田君平生の本領なり是故に君は専ら地方實業の樞機に衝り力を公共の事業に致して關縣關郡の利益を興し邦家人の福祉を進めん事を期す壯なる哉君地方門閥の家に生れ聲望巍々堅操能く資財を保ち鄙吝陋劣に流れず時運の趨勢を看破し眼を財界の消長變轉の上に注ぎ國家治政に教育に實業に心身を勞し利國濟民の殊功を立て聲望地方に赫々たるもの安田君の如き又稀に見る所なり君は嘉永五年四月四日を以て鳥取縣伯耆

國西伯郡大篠津村に生る嚴父を又四郎氏と曰ひ君は其長男なり其遠祖は今を去る數百年前新田遠江守義貞の後裔より出づ爾後封を轉じて尼子恒久氏に奉仕し家臣となれり尼子氏落城するに及び民間に入り居を現住地に卜し爾來累世里正役を勤め嚴然たる家格を有し地方稀有の舊家として郷黨に推重せらる君幼より學を好み越後國より儒者佐々木全齊氏を聘し和漢學を修め後ち雲州舊廣瀬藩の碩儒海野又太氏に従ひ講學數歳才學共に進む
明治四年鳥取藩より功勞を表し永世苗字一代帶刀被免其身一代郷卒申付けらる爾來今日に至る其間多年君が公職公事に就て越歷を掲げ以て其卓績の一部を知らしめんとす

- 一 明治五年十月第八十八區戸長申付候事
- 一 全七年一月元第八十八區戸長解職
- 一 全八年四月小篠津小學校保護人申付けらる
- 一 全年六月等外一等仮訓導第十七番中學區第五十八番小學小篠津學校勤務申付らる
- 一 全年十一月依願等外一等仮訓導解職
- 一 全九年十月第二十中學區第六十三番小學篠津學校保護人申付候事
- 一 全十四年一月四等郵便取扱役申付候事
- 一 全十五年九月依公選大篠津村衛生委員承認候事
- 一 全十六年三月東京上野に於て開設の水産博覽會出品總代として出京申付け

らる

- 一 全年九月會見郡第十九番學區學務委員申付候事
- 一 全十八年六月舊會見郡選舉會に於て投票多數により鳥取縣會議員補欠員となる
- 一 全十九年五月任三等郵便局長大篠津郵便局在勤
- 一 全年全月全日判任宮十等下俸を給せらる
- 一 全二十年十二月兼任會見郡和田村外三ヶ村戸長
- 一 全年全月全日準判任八等給上給俸
- 一 全二十一年二月三等局長非職
- 一 全年十月大篠津村會議員に當選全三十年退任

- 一 全年十二月町村制實施に付戸長廢官
 - 一 全二十四年四月出雲大社教會副取締を囑托せられ今尙在任中
 - 一 全二十六年一月大篠津村長に當選全三十一年一月滿期退任
 - 一 全二十八年三月日本赤十字社鳥取縣委員を囑托せられ全二十九年十一月縣委員を解き更に西伯郡委員を囑托せられ今尙在任中
 - 一 全三十年七月西伯郡畜産組合議員に當撰今尙在任中
 - 一 全三十一年鳥取縣西伯郡蠶糸同業組合組長に當選全三十五年九月辭任す
 - 一 全三十三年八月一日大篠津郵便受取所取扱人を命せられ二等手當を給す
 - 一 全三十五年十二月三等郵便局長に任じ大篠津在勤
- 君人となり資性穎敏豁達耐忍以て事に當り又哀憐の情に富む而して事苟且に

せず其利害得失を講究し其長短輕重を商里し以て利用厚生の要途を立て公益を圖る又君が公職公事に就任するや熱誠能く其職責に尽瘁し十年一日の如く毫も寧處せず名望愈々起り德行顯著なるもの多し殊に君實業熱心家にして専心斯業に身を委ね實業振興を以て其天職となし氣血を盡して斯業の發達に傾注しつゝあり先蠶業の將來國家事業として有望なる事を攪破し明治七年卒先模範桑園を拓き傍ら蠶兒飼育を始む明治十年に至り規模を大にして益々斯業の發達を企畫し島根縣勸業課長門野氏の尽力により桑苗栽培費として金八百圓縣より借受け桑苗壹万餘の栽培となせり傍ら地方を勸誘獎勵し以て斯業の振興に力む明治二十一年郡の事業たる桑園十五町歩餘に桑苗栽培之際君撰ばれて郡長原氏の命を受け桑苗撰擇の爲め私資を投じ奥州及び信州地方を

巡視し大に得る處あり歸省后君が斡旋經營監督の下に桑苗の栽培をなせり該木の生長せるに至り之を無償にて西伯郡内一般に配付せり爲めに郡内蠶業倍々隆益を致し地方に福利を増進せしむるに至りしは實に君が多年斯業に尽瘁せし功績に外ならず君又斯業の爲め自資を投せしもの數千圓に及へりと云ふ其他地方公共事業悉く君が關與せざるなし而して君が方今施計講策するもの幾種有りと雖も未だ成效の運に至らず爾來其敏腕偉畧を要する是より益々多々なるを信ず

君尙ほ公共慈善心に富み公築等に寄捐する尠らず又職務勉勵の廉を以て前後賞典に接する數十度に及べり

三島佐次右衛門君傳

銀行は商業世界の原動力なり百工之れが爲めに興り技藝之れが爲めに進み物産之れが爲めに増殖し事業之れが爲めに振起す凡そ天下の事物資本の力を藉らざれば成立する事なきと共に銀行の業務亦須要緊切止むべからざるものありは素より社會の通論にして其鴻益の如き敢て吾人の喋々を要せざるなり三島佐次右衛門君熱誠銀行の業務に當り經營刻苦力を資金の融通に尽す事亦前後十數年に及ぶ國家實業に偉益を與ふるもの蓋し少々にあらざるなり豈に筆して以て其卓功を傳へざるべけんや

君は島根縣の大地主にして嘉永五年十一月五日を以て松江市白瀉本町山口の

家に生る實父を源助氏と曰ひ君は其三男にして幼名豊三郎と稱す明治十年出て、三島家の養嗣となり入籍全二十年一月一日家督を繼承し十代の主となる名を佐次右衛門と改む君幼より學に志し明治八年以來儒者河野天鱗雨森精翁の兩師に従ひ漢籍を研修する數歲學大に進む君人となり資性沈毅にして堅忍不撓の氣象を具ふ才智秀發人の意表に出つ明治二十二年地方實業の不振を慨し松本歡次郎氏等と謀り松江銀行創立の任に膺り刻苦經營遂に其志達し爾來専心身を實業界に委ね大に同志を糾合して規畫概ね遺算なく地方公益を増進するに力む明治三十一年四月松江商業會議所會頭として衆議院議員撰舉區畫中市と獨立選舉區とすべきの意見を商業會議所中國聯合會に提出し滿場の喝采を得て之れを中央政府總理大臣に建議し稟請する處ありしが其功勞空しか

らず遂に素志を貫徹す是れ實に全國商業會議所に卒先して市の獨立を唱導せしものなり方今君の輿望たる國縣に洽く縣下に於ける銀行會社組合に關係を有するもの甚だ多く凡う地方事業に於ける施設畫策君の氏名を署せずんば成立せざるの觀あり威信大なりと謂ふべし其經歷尙叙すべきもの多く實に枚舉に遑あらず明治十年以來茲に二十有五年歴任せし公職及ひ公共團體等に關し肩書を有するもの勝て數ふべらず現時松江商業會議所會頭松江銀行頭取山陰貯蓄銀行頭取島根縣農工銀行監查役松江電燈會社監查役等の重任を帯び行務を總掌し社務の整理に任じ拮据勵精能く力む又縣會議員に撰任せられ縣政に參與す斯く多年身を公利公同の事に委ね孜孜責務に尽瘁せし偉績實に多大なり

君又風流の雅致に富み書畫を好み家に奇珍數十幀を藏す橋本雅邦山名貫義鱸松塘岡本黄石小原竹香諸氏と交誼淺からず君尙は義氣に富み慈善救恤諸公築等に資を吝まず或ば公職公共事業に尽せし廉を以て官より賞褒状を受くる數十度に及びりと云ふ吁君の如きは縣下國利民福の母と云ふも亦蕪言にあらずなり

山本誠兵衛君傳

貧賤は克く人傑を産み艱難は克く汝を玉にす至誠の到る處忍耐の極まる處金聲玉振の名譽となる君が思慮周密經營慘憺なる一蓑一笠の貧兒より身を起し巧みに商海の風雲を叱咤して摸範を後進に垂れ現に垂れつゝあるは尸位素食の輩をして坐口に顔色なからしむ君は島根縣出雲國松江の人嘉永三年十一月を以て生る實に全市芋町山本慶七氏の三男なり幼字要之助と云ふ幼時の貧は君をして僅かに一ヶ年許り寺子屋に入りて習字の業を學ばしめたるのみ十二歳の時酒造家古津屋宇右衛門の丁穉となり日々市内廻りて酒樽を集散し併せて集金を事とす此時誰れか今日の山本誠兵衛君あるを知らんや年甫めて二十

一歳辞して家に歸り獨自商業を管まんと欲せしも囊中寂々として一文の貯だになきを以て如何せん於此君は先づ其資を得んが爲め試みに製茶を神戸に賣込まんとせしも成算なかりしを以て終に搾蠟々燭製造の業を開き初めて獨立の商業を爲すを得たり已にして思らく奇利を得んと欲せば機先を制せざるべからず惟ふに世運の開進と共に洋服の需要は日々益々増加すべしと明治七年急に職工師を東京より雇聘し裁縫を開きて數多の職工生徒を養生す後ち傳習生の漸く其技に熟すると共に業務益々繁榮居前市を成す明治十七年更に製靴業を發くや東京より良師を招聘し傳習生を養ふ技術日々進みて忽ち他を壓するに至る全二十三年内國博覽會に出品して三等賞を領するの好績を得たり二十四年機織業を創む蓋同地は古來木綿織の産地にして出雲木綿の名聲は海内

に遍く其輸出は年々百數十万反の多きに及ぶ婦女子の如きは悉く其業に就かざるはなし而るに維新后其業漸く衰頽に属せしを自ら大に之を慨き常業の傍ら殖産協議會なるものを起し更に周旋尽力して機業獎勵會を創め又羽二重傳習所設け地方殖産の爲め計るも極めて親切由來松江地方に於ける金融機關は三井銀行支店と第七十九銀行の二ヶ所あるのみ而して七十九銀行は夙に破産し三井支店は代りて第三國立銀行となれり而るに時勢の進歩に隨ひ漸く資金流通の繁劇を來すは經濟上の常理にして僅に一銀行の支店のみにては其進運に伴ふ能はず是に於て君は舊松江銀行頭取松本觀次郎と共に銀行の設立を自唱せしも時機未だ會せずして之に應ずるものなし蓋七十九の破産以來痛く地方人士に共同事業の不利益なるを感せしめ漸く其習俗を成せしに依り君は大

に其弊風を排除し衆議の紛々たるを顧みず説くに利害を以てし諭すに理義を以てし辛苦慘憺の餘明治二十二年に至りて終に一銀行を創立する事を得たり爾來松江市の商運爲めに一層の利便を受くるに至りしは君與りて大に力ありと謂ふべし加之君は山陰第一の都會たる松江市に電燈の架設なきを憾み明治二十二年以來に奔走し稍々熟せんとするや二十四年に君は自費を以て二名の技術見習生を大坂電燈會社へ派出し以て其技を傳習せしめ二十七年夙志漸く成り電燈會社を組織するに及び曩きの傳習生其技に熟練して歸り其事業を容易に進歩して電燈の需用も意外に多く爲めに今日己に器械の増設を要する盛況を見るに至れり其功績至大なりと謂ふべし又君は地方交通運輸の不便なるを慨し之れが運籌畫策經營する所多し松江棧橋會社の如は君實に其首唱たり

殊の外海漕業は皆伯州境港に於て荷物客の取扱店あるのみなるより松江に送るべき荷物も一々境に於て取扱ふが故に境松間僅に五里の間運送に遅延し商品如きも境松間の運送に要する日子は却て大坂境間に於けるより多きとあり常に商業を逸すると鮮からず幸に君は往年其兄家に寓するの當時三度飛却の經驗ありしに想到し此流弊を一洗せんと志し之れが革新を圖れり會社も亦店の大に用ふべきを知り直に君に托して荷取扱店を松江に新設せしむるに至れり於是數艘の運送船を造り以て松境間を往復せしめ荷物の運漕を迅速ならしめたる爲め松江の海運上に一大面目を開きたり其他松江に於ける公私の事業殆んど君の關せざるものなし明治八年葺町組長となり島根縣消防組頭取となり又地租改正の際地租下調委員と爲る全十四年町會議員に撰ばれ爾後改撰毎

其撰に當り尙ほ聯合町村會議員となり縣勸業諮問會員を命せられ市制施行後市會議員となり又所得稅調查委員名譽參事會員徵兵參事員に擧げられ今や市會議員商業會議所副會頭株式會社松江銀行全山陰貯蓄銀行全松江電燈會社山陰生命保險會社株式會社大原銀行松江水産株式會社の各取締役濱田營造會社監查役機業獎勵所會理事の要職に在りて各其責務に尽瘁す其公事業に斡旋尽力し貧民救恤して賞譽せられし事の如きは數十回の多きに及び一々枚擧に違あらず

君資性温雅にして忍耐の志操に富み度量宏濶克く人を宛る况や創業の機敏にして經營の斬新洋密なるに於ておや實に商界の人傑たるに愧ぢず左に松江商工會並に松江商業會議所より君に贈與せし感謝狀を記し以て本傳の局を結ば

ん乎

感謝狀

松江商工會創立以來茲に九年其間理事として擲私殉公内外に斡旋せられし功績は寔に不遑枚擧候段會員の瞻仰する所に有之今日松江商業會議所の新設を見るが如き其由來する處全く右の系統を繼ぐものに外ならずとす依て感謝狀如件併せて聊爲表徵意添之金杯

明治二十七年六月一日

松江商工會員

岡崎運兵衛外五十五名

松江商工會理事

山本誠兵衛殿

感謝狀

明治二十七年八月以來副會頭の重任に當りて事務に分擔し拮据勉勵能く本會議所の体面を保維し其基礎を鞏固にし着々商工の振興を企畫せられたる功勞殉に偉なりとす茲に本會議所組織更革に際し謝意を表ずる爲め銀盃を贈呈す

明治三十五年八月二十三日

松江商業會議所

副會頭 山本誠兵衛殿

上田孫吉君傳

能く大事を成すものは豪放に失し細事に長ずるものは齷齪を免れず是れ人事の通弊亦已むを得ざるものなり然れども是れ單に未開世界に於ける人事に就て言ふを得べきもの焉んろ之を以て文明時代の人事を律すべけんや夫れ治に居て乱を忘れざるは良將の明智なる所以にして盛時に在りて艱苦を忘れざるは企業家の慎重なる所以なり唯其れ明智にして平時に軍備を怠らざるが故に能く一朝の變に應じて泰然之を處し毫も狼狽する事なく唯其れ慎重にして盛時に不慮の備へを務むるが故に亦一旦の失敗に遭ふて悠然其身を措置し復び其運を回らすの計をなすを得べし彼の蒙時未開の世に在りて所謂豪傑なる

者徒らに抱負の大なるを誇りて細事を省みざるを特性となすと雖も苟くも開明の活劇場に立て英氣自ら負ひ有爲の才を試みんとするは須らく其大事に志すと共に能く細事に務め慎重にして事を猥りにせず用意周到思慮深遠にして他日の悔を遺さざるの覺悟なかるべからず而らされば能く志を達し功成りて名當代に顯はるゝもの幾んど罕なり豈徒らに豪放宕落を以て眞の英傑と稱すべけんや上田孫吉君の如き眞個吾輩の意を得たるもの其實業界に雄飛せんと欲する大志を抱き數々事に敗れて忍ぶべからざるの苦境に陥るゝ能く君をして復た立つ事を得せしめ遂に其志を達するに至らしめたる所以のものは敢往直前決行難に當りて辞せざるもの是れ君の氣と骨なり俊捷尖利急を視て能く斷するもの是れ君の才と智なり吁此氣骨と才智とを以て覇を鑛業界に稱す

るに餘りあり況んや清廉潔白を以て心を持ち剛明正直を以て事を行ひ仁義孝悌忠愛篤實を以て父母兄弟朋友妻子に交はる此盛徳此美質滔々たる鑛界君と比肩するもの幾人かある君が昂然たる威望と有して先覺同濟に重きを置かるゝもの豈に偶爾ならんや君は明治二年十二月を以て兵庫縣但馬國朝來郡生野町字白口に生る實父を常助氏と曰ひ君は其嫡男たるゝ其遠祖は天文十二年豊臣氏盛んに鑛業を營みし頃姫路藩士より轉籍して現地に移り鑛業に従事し山師となり或るは山留となり荏苒今日に至るも父祖の業を繼續せり嚴父常助氏は殊に斯業に熱誠力を尽し常に嶮山幽谷森林等を跋渉し焦心苦慮鑛脈を探見し地方の鑛業發達に力め振興策を施計し爲めに地方の福利を増進せしもの實に不尠其功績顯著なり時人其功勞を賞し明治二十九年六月鑛業者安井金助氏

進運に向ひ大に修學の必要を感せしより元と別子鑛山製練課長金谷民人氏に其任を譲り時に自己の貯蓄金の半を兩親に贈與し其半を懐にし翻然去て笈を遠く東京に負ひ大に成すあらんとす然るに其勤學中不幸にも故國より父常助氏病氣大患の報に接し止むなく素志を任せ學途にして郷貫に歸り日夜看護に尽心せしより着々効を奏し病氣全癒を見るに至り丹波國天田郡下夜久野村小田谷岩代鑛山田艇吉塚口金次所有の鑛業地を讓受け潜身開坑に従事せり其探堀中明治二十五年八月恰も九州地方石炭暴落鑛地價值腐敗せり此期に乗し君思へらく斯く鑛業界に異例の聲價を失ふと雖も將來有望なる事を攪破し鞍手遠賀兩郡の探堀權を買收せんとす從事中なる鑛權を地方の豪農岡本幸右衛門氏に讓與し自ら九州に向ひ出行せり其行旅途中神戸市に於て大石櫻井金司等

總代となり有志數百名の發企により宏壯なる紀念碑を建設し以て永世其功績を表彰す年齒己に六十有八尙ほ矍鑠として壯者未だ衰へすと云ふ實に偉なりと稱すべし君生れて穎悟幼より尋常兒童に異なり徒らに嬉戯を事とせず成童にして既に頭角を全年輩中に卓出せり明治八年教を郷校に受け勤學數歲遂に小學全科を卒へ爾後父の志業を繼ぎ明治十二年若冠にして鑛山の奴隷となり坑内捨石運搬夫を稼ぎ能く其任に耐へ轉々各所に勞働す十三年五月播摩國多可郡牧野新町入角鑛山に奮働中菅野義秀氏の門に入り夜學を研修し得る所あり全十五年四月同山事務員に擧げられ翌十六年八月職を辭し奈良縣吉野郡地方の鑛業を視察し全十七年八月全郡析原村大杉鑛山の探堀を創業し林文平氏の代理者となり業務を擔任執筆する三星霜餘責務に尽瘁せり而るに世は淳々

の勸告により全市北長狹通り關戸家の家政改革に際會し遂に攝州川邊郡多田大間歩其他數ヶ所の鑛業地を讓受け全年十一月起業專心採掘に奮勵せしも如何せん天運の未だ到らざるにや國家事業として見るべき發達を得ず收支償はざるを以て全二十八年鹿兒島縣大島鑛山を讓受け創業せり翌二十九年四月轉じて縣下石見國那賀郡大麻村大字折居鑛山佐々田懋横山直内両氏所有鑛區を引受け起業全三十一年三月に至る其間隆況を致し採掘せり全年四月濱田町附近有志者卷金次外十餘名發起者となり疊の浦採炭會社を組織せり而るに鑛床の確實ならざる而已ならず炭價暴落せし爲め拂込延期説を主張し到底成算的鑛業をなし能はず依て全年五月亡名者安駒壽と相計り朝鮮國鑛業の啓發せざるを憂慮し君渡韓吳漢善等所有の鑛區及慶尙道咸鏡道を採見して鑛石存在を

檢斷するに鑛床として見るべき價值なし何れも「ポケット」なるやの感あり故に全年八月歸省す爾來山陰地方の鑛脈鑛床の採見視察に力む從來縣下簸川八束兩郡の鑛山は勝部元右衛門氏隆んに鑛業を營みしも漸次衰微なし當時鑛業頹勢を來し製銅産出も日に減し地方鑛業は全く頹廢の姿となれり時に君大に苦心拮据經營斯業の恢復を圖り舊式なる採掘法を一掃し三十二年八月八束郡出雲郷村内馬鑛山の再び採掘に着手し身鑛長の任に當り銳意熱心之れが振興策を施し起業々務に尽瘁せり而るに全三十五年十二月に至り製銅價值沈落を生ず遂に鑛業休止の已なきに至れり方今縣下工業の發達に伴ひ炭田の欠乏之を來し爲めには是が供給は自然他より輸入する現況に際し君思へらく將來炭田採掘は目下緊要の急務たる事を看察し焦心苦慮する處あり三十五年八月飯

石那一宮村大字高窪鑛炭區百余万坪を譲受け數万の資金を投じ百端新式なる採鑛法を施計起工せり該炭山は實に縣下唯一の最大區にして炭質純良炭量幾層にも重疊せるが故に永遠の事業として收利夥しと云ふ

以上叙し去り叙し來りたるもの君が鑛業に碎心尽瘁せし經歷の梗概を示すものにして君多年斯業に遺算なく全國を遍歴せし事績を細叙すれば零々たる冊子は爲めに全編を歿せん故に編者は茲に其煩を省き唯其越歴の一斑を記するのみ

抑も君若冠より父の業を繼ぎ多年營々斯界に奮勉して一日も寧處せず其間幾多の辛酸苦楚を嘗め事業失蹉の難關に當り失敗を重ね傾廢顛覆の悲境に沈倫する屢々なるも毫も屈撓するの色なく心を勵まし勇を鼓して漸く目的の彼岸

に到達するの好運に遭遇せり現時數万の資を積み聲望赫々吾山陰地方鑛業界の重鎮として目せらるゝ實に偶然にあらざるなり

古聖に曰く徳孤ならず必らず憐ありと君が辛楚艱難雄大なる事業な經營し鑛業社會に偉益を與へたるの功績豈に唯一にのみならんや加ふるに其鑛山附近の人民及び坑夫等は皆其恩恵に衣食して以て其の生計を營む天二物に幸せずと雖も此國家的有爲の士をして空しく志業の蹉跎失敗に終らしむる事をせんや夫れ積善の家には余慶あり困苦の極まる所觀榮必らず伏す天色空濛陰雲暗愴の間一縷の陽光赫乎として天際に洩れ來るもの蓋し世故の常なり吾人は是より輓軻流落の境遇を脱して洋々たる順境界裡に逍遙せる君を寫すの端緒に就かん而て君尙春秋に富む將來益々天成無尽の精力を發揮するあらば其大成

や吾人は刮目して之を待さつ・あり

君又義氣に富み救恤慈濟に資を吝まらず故に賞褒狀に接する數次に及びり君又日本赤十字社修身社員及武徳會特別會員となり殊に又純良なる學生にして學資に窮する如きものあらば是れに資を給し爲めに社會有爲の地位に立つを得しもの數名に及びりと云ふ實に非凡の特行と稱すべし

原源藏君傳

滔々たる社會の形勢恰も潮の流れて止まざるが如く其進むや簸揚掀翻或は高く或は低く又其行くや或は西し或は東し上下縱橫變動常ならず而して其事情の錯綜せる豈に尋常人の端倪し得る所ならんや而も此社會に立つて此變動に應じ堅忍不撓嘗て其機を誤らず明敏豁達才を果斷に決し且夕不測の活機に對し其趨勢に隨て常に心を世局に傾け會て一日も國利民福を忘れず躬行卒先私營を捨て力を實業界に尽し遂に一世の推尊を受く蓋し常人の企及すべからざる所英傑か好んで其衝に當らんと願ふ處吾輩之を酒造家原源藏君に見る君は島根縣出雲國松江市の人にして堅町に居住せしも酒造業の爲め現時八東郡

乃木村に轉籍し從來の店舗は支店となし今其家系を採ぬるに家素と鑄工匠にして御璽及神器を鑄造せり而して其祖は壹千有餘年前和銅年間河内國丹治郡大保村に住せしが壽永年間木曾義仲の暴掠を避けて長州長府に移り後ち文治元年に至り出雲松江に轉居せりと云ふ而して酒造業を創始せしは實に元治年間にして舊幕累代町役人を勤めし門閥なり

君人となり資性沈毅豁達事に當つて臆せず物に觸れて駭かす緩急思慮縝密眼力能く社會の實相を看破す由來地方酒造業は一般因襲の久しき容易に舊套を脱せざるを以て委靡振はず實に困難を極めたり君夙に之を慨し東奔西走洽く同業者を勸誘し遂に明治十六年に至り始めて松江酒造家同盟會を起し推されて會長の任に當り爾來區域を擴張し現今出雲國の組合となし始終其職を繼承し

て組合の事業益々拮据經營し組合員を誘掖改良に奮勵する事前後二十年の久しきに亘り其功勞は組合員其他關西地方の全業者の等しく感佩する所なり故に組合員一同より銀牌謝状を送り其功勞を表す

抑も君の家は酒造業を開始せしより以來數百年斯業に従事し其改良發達に心を凝らせり然るに吾出雲國は山間僻地にして交通不便從て人智未開の爲め酒造の如きも依然舊法を墨守し粗釀のみにして販路狹少利潤僅少なり明治十四五年の頃は酒造家殆んど頽廢の域に立至りしも同業者は益々消極的の方策に出づるを以て君深く之を憂ひ時の知事と計り大に斯業の面目を改むるの策を講じ第一着に君自費を以て京坂神戸灘地方に趣き同業者及び其杜氏を同伴し實地に酒造上の研究をなさしむる事數年傍ら卒先衆民を誘導獎勵し或は關西

中國及び島根鳥取兩縣並に縣内國內等斯業の酒類品評會を開設して以て朦昧なる企業者の競争心を惹起せしめし事前後數十回終に一つ火留改良酒を保存し是れが爲め縣内企業者共に利益廣大となれり其他全國酒造家大會の如きも君撰ばれて組合の代表者として上京自資を投じて斯業の爲め斡旋尽瘁せしもの幾許なるを知らず實に是等の爲めに資を費消せしものを通計すれば數万金と以て數ふべし君が多年斯業の爲め寐食を忘れ十年一日の如く熱誠心身を勞し尽瘁せし功績は八面玲瓏四時其姿容を更めさる芙蓉峰頭の雪と共に千秋消滅する所なかるべきなり

君曾て區長戸長より市會議員市參事會員徵兵參事員等に推選せられ市の行政機關に干與し又商業會議所の副頭取となりて一般商業工の發達を企畫し尙ほ

縣會議員衆議員の候補に推舉せられしも實業上の改良發達に尽くす可き貴重の光陰を割くを患ひ且つは當時の時勢に鑑み悉く之を辭し専心一意實業の爲め尽瘁せり君常に貧民救恤或は天災後の前後策の如き社會公共的諸種の事業の如き卒先私財を投入し一として君の與らざるなほ其他商工農一般實業上に資を吝まらず盡力せし事數十回に及ふ又主上陛下銀婚式及び皇太子殿下御慶事の節には祖先よりの舊法により國産物を献納せり

明治三十四年巴里世界大博覽會に出品せし際其地の豪商ゲエニース氏より本年君の經歷を詳細に某官人より聞取り而後相互國産の一手販賣を契約取引をなさん事と申込み來り金尾知事の如きも大に相互の取引開始を助賛され今や彼の地滞在の林事務官長へ取引上の手續其他紹介中なり

而して君の家は今日に至るまで再五祝融の災に遇ひ古器物の過半は烏有に歸せしと雖も幸にして尙ほ二三の古器物存し優に其舊家として家歴ある事を証明するに足るものあり現今家系取調方を重野博士及び中井敬所氏に委托中なり且つ鑄工匠にては日本鑄工の始祖に次ぎたるものなりと口碑に傳ふ實に稀有の門閥と云ふべし

斯く君多年酒造業の爲め尽瘁し卓偉の功績を奏せしより全國酒造業者より送りし感謝狀及び銀牌數多あり且つ品評會に於ける褒賞の如きは數十通を領せり其他巴里世界博覽會出品賞勵の爲め全國酒造大會總監前田正名氏より銀牌を全二十四年島根勸業展覽會より銀牌賞狀を受く其他公共事業救恤等により木杯を受くる數十回感謝狀の如きは長文なれば茲に畧す以上編述せる叙記は

只履歷の概要を示すものにして詳記するときには實に筆頭墨紙の尽す能はず故に編者は其一端を叙し以て其局を結ばん君の性行に鑑とすべきもの實に不勘後進の子弟君の顯榮を望まんと欲せば須らく先づ自信以て事に處するの勇氣を豫覺せざるべからざるなり

野津運一君傳

少壯の時多くば前途の達觀に暗らく徒らに客氣の動す處となり意氣昂揚して天馬空に馳するの慨あり思ふに彼等青年の前運は遼遠にして暴風怒濤の險あり暗礁蟠窟の難あり彼等は能く千艱排し去り萬難を踏み破りて以て目的の彼岸に達すべきのみ而れとも動もすれば小康に流れ風潮に盲動す或は偶々年少才子の前途囑望するものあるも家計不如意なるが爲め素志を任せ家務に關絡するの止むなきものあり之に反して身万金の家に生るゝも放縱逸隋に流れ貴重資財を蕩盡し其極終に産を失ふにあらずんば則ち鄙吝陋劣極りなく徒らに父祖の遺田を固守し利用厚生の道を知らず殖産興業の策を立たず所謂守錢

の賤奴となる相互共に一身の方針を誤り一家の興隆を頽り遂に天涯に蹉跎するもの比々皆是れなり野津運一君の如き地方富豪の家に生れ能く此客氣を歴し世の濁流に染まざるものと謂ふべし君は明治八年十月十五日を以て出雲國八束郡朝酌村に生る家嚴を傳三郎氏と云ひ君は實に其長子なり地方屈指の豪農にして舊幕累代郡役人等を勤めし閥家なり明治二十九年家督を繼承し七代の主となる夙に小學全科を卒へ次て松江に出て中學校に入り勤學壹年餘にして退く明治二十二年後を京都に負ひ村田妙法院に寄宿なし講學且つ東洋學館に通學し英語を專攻す爾後東京に至り國民英學會に入り修學する半年餘偶々實父病氣大患の報に接し已むなく素志を任せ郷貫に就き看護怠らず年漸く丁に達するや撰ばれて村會議員となり村治に勉め内に在ては勤儉節守以て家政

と理し専心家運の隆興に力む明治二十九年郡會議員に當撰能く其任に膺り職責に尽瘁せり明治三十五年郷民の輿望を受け縣會議員に撰任せられ現時其職に在りて縣政に參與し熱誠其責務に任ず其他所得稅調查委員郡農會員縣農會員たり然れども是れ等の公職公事たる君の未だ好む本領にあらずと曰く身架空の妄想に馳せざるが如し將來自己特得の才能を發揚して權利を伸張し群衆の中に聳立するを期せり君年齒漸く三旬前途の成効其れ果して如何ろや吾人は今君の經歷を叙し來り赧然として愧づ

石谷董九郎君傳

信義は志立つるの大本にして才智は事を成すの要素なり故に假令英邁能く一世包羅するに足ると雖も信義なくれば行ふこと能はず資財以て天下を籠蓋するに餘りありと雖も才智なくんば遂ぐることを能はざるは古今の明鑑なり爲政治家たるもの素より然り商家たるもの亦然らざるを得ず然れども世道澆季滔々たる輕佻浮薄の今日に在りては之れ爲政治家求むるうれ或は得るに甚だ難からざるものあらん之を利爭場裡に求むるは容易の業にあらず蓋し商界怒濤の間に馳騁して敢て其俗に泥まらず窮して乱せず富んで驕誇の風に染まらず身を遜し言を卑ふし彌販市を盛にして益々生營を努め進んで國利民益を計圖し夙夜孜孜

其業を勵ますものは余輩偶々當世の豪農石谷董九郎君に於て之を見、其れ君が今日あるを致したる所以のものは父師の薰陶宜しきを得たるに因ると雖も抑も君が信義を以て經緯となし才智以て之れが運轉を爲したるの結果たらざるなきを得んや今是を君が經歷に徴するに信義以て事を行ひ才智以て功を遂けたるの跡彰々として明らかなるものあるを見る君は天保十一年九月鳥取縣岩美郡本庄村に生る君世々農を以て業とす舊幕累代大庄屋等を勤めし舊門にして隱然家格を有し嚴父を藤四郎氏と曰ひ君實に其嫡男たり

幼より穎悟夙に學を好み漢籍を數氏に就き修むる年有學大進し造詣する所不淺神童の稱を受けしと云ふ

明治四年本庄村外十三ヶ村戸長に任せられ村政の釐革に力む爾來終始各種の

公職に累選せらる今其主なるを列擧すれば明治十三年五州一縣の際縣會議員に當選す次で常置委員となり其責務に尽力せし功績不尠然るに五州一縣の制を革め鳥取縣設置せらる、や再び縣會議員に當選し副議長に選任せらる尙進んで議長となり各要職に當り縣治を鞅掌するに至り辨は以て議場を制し説は則ち肯綮に中る而も勇猛果斷にして機智に富み事を執るに當りてや盤根錯節の如きものも是を處するに宛も利刀を以て菜根を切るが如く度量の洪濶なる勢に乗じて以て進化せる時世と共に社會の潮流を洞察し地方公益を謀り世に先たつの爛眼識量實に縣下有數の士と稱するに足る

明治二十六年衆民の輿望により衆議院議員となり魏々たる令聞を博せり爾後三十五年に至る數度の改撰毎に當選の榮を占む其の在職中卓功偉績實に顯著

なり殊に地方重要問題たる鉄道布設に關しては熱誠南戰北馬斡旋至らざるなく十年一日の如く盡力せらる

君又明治三十一年縣農工銀行創立の際之れが創立委員となり大に設置に力を尽す故に開行以來今日に至る全銀行頭取の榮班を占む是れ君が經歷の概要にして如何に地方人士の間に卓然たる勢威と名望を負へる手を推知するに足る君又義氣に富み國家に對するの義務を重んずるが故に苟も公共の利害に關するあらば直ちに私財を擲て義捐寄附救助等となし之れが爲め褒狀賞品を受くる幾何なるぞ不知薄志弱行の世君の如きは實に得難き人ならずや

三代龜太郎君傳

明治の盛世に生れ人文進化の時に當り少年才子の輩出するもの彬々乎として其れ甚だ多し是れ素より國家の慶事たるに相違なしと雖も一方には又大に憂ふべきの現象ありを如何せん思ふに彼等青年の前運は遼遠にして暴風驟濤の險あり暗礁蟠窟の難あり時に鯨鯢の跳るを見るべく時に獅虎の哮るを聞くべし而て彼等は能く千難排し去り萬難踏み破りて以て目的の彼岸に達すべきのみ豈に其れ容易の業ならんや然れども彼等動すれば小康に流れ風潮に盲動す故に其成果の音に見るべきものなきのみならず寧ろ世上幾多の年少才子滔々相率ひて常に風潮に驅られ小成に安んじ有爲の身を以て無爲の沼中に陥らさ

いもの蓋し勤し三代君の如きは其れ罕世有数の士と謂ふべき乎

君は明治三年三月を以て島根縣八束郡美保關村に生る嚴父久三郎氏の嫡男にして學齡に及び小學に入り規程の科を修め年甫十六歳出て、松江に至り河井私塾に漢學を研習する二年余爾後轉して私立三州學校に入り普通學を專攻す
在學一年余大に得る處あり明治二十一年居村學校の雇教員となり爾後授業生の試験に登弟し前後子弟の薰陶に力むる四年地方教育上大に發達を圖れり明
治二十四年十二月美保關郵便局長を拜命し事務を宰理せり元來該地は隱岐に
最も關接するが故に船運及び郵便等の如き至便の取扱地たるも從來郵便物航
運等は凡て境港にて之を取扱ひ居たりき君大に之を概し時の知事篠崎五郎氏
に事情を稟請し種々苦心思慮を凝らし百万奔走幹旋の效果明治二十六年四月

遂に汽船の寄港を見るに至り郵便物荷客の取扱をも成すに及び爲めに村民の
福利を増進せしめしは實に君が多年苦楚尽力の功によるものなり

明治三十年十月電信事務を開始せり全年大日本帝國難水救濟支所を全地に設
置せらる、や父久三郎氏救助夫長に選ばれ救助船一雙を設備せらる君局務の
傍ら其職務を扶け熱心共に其職任を全ふす然るに君熟々思へらく抑も水難救
濟會支所設置たる不慮の水難破船ありし際救助船を差向くるに當り能く之を
救濟する事を得ば宜しきも若し救助船其任を尽す不能不幸にして共に難する
が如きあらば更に救助船を要するも只一艘の設備にては此際到底責務を全ふ
するを得ず君爰に傾注留意し豫備船の必要は目下急務たる事を攪破し自己の
所見を全會本部に陳述し傍ら地方有志に訴へ大に捐金を募り其素志を貫徹せ

んことを期し百方奔走熱誠殆んど寐食を忘る其の心勞空しからず着々功を奏し明治三十五年七月美保關救濟所長に任せられ尙ほ全年十一月新造船の竣するに至り全月十四日を卜す盛大ある進水式を擧ぐ時に君救濟會本部總裁故小松宮殿下より海軍大佐制服制帽下賜の榮を享く是れ眞に君が一片公共の至誠凝つて此に至りしや論を俟たず因に記す君は吾縣下三等局長中の筆頭を占むると云ふ君尙ほ公共救恤心篤く義氣に富む故に賞褒狀に接する數十度に及へり吁其才幹氣力卓越起凡なるに非らされば焉んぞ斯の如きを得んや君尙春秋に富む將來の抱負は如何必らずや世人をして仰視胆望せしむる所のものあるや必せり

橋田浦藏君傳

天下爲すべき事多し然れども爲すべき時を得ずと謂ふ勿れ人已に爲すべき心あれば則ち爲すべき時は目前に来る時の無きは時を求むる心無ければなり謂ふ勿れ家に擔石の儲なし何を以てか國家を利せんと勤儉力行汝の額に汗して天下何物か爲すべきからざるものあらん已に此の覺悟あれば福利は求めずして自から至る復何ぞ財の有無を論ずるを須ゆん渠鴻が如く質春するも可なり班超か如く雇書するも可なり事の難易只夫れ精神の如何にあり橋田浦藏君の如きは則ち其適實なる殷鑑たり君は醫術を以て其の業となし地方の人命を濟ふもの幾計なると知ず加ふるに地方公共の事に尽瘁し夙に令名を轟かす君の如

きは實に晴星の穹霄に徹々たるが如く夥多の醫中僅かに見るのみ其の卓功偉績傳へて以て青年子弟の模範とするに足る宜なる哉君は鳥取の藩士にして安政五年三月を以て伯耆國東伯郡長瀬村に生る嚴父を見流氏と曰ひ君は嫡男たり家累世刀圭を以て業とす其家系を採ぬるに遠祖は今と去る數百年前木村長門守の嫡流より出で後ち數世を経て雲州松江藩の侍醫となり奉仕す當時姓を秦と稱せり而るに世々短命にして夭死の不幸重なり故を以て藩主より改姓の命を受け始めて橋田の姓を冒すに至れり爾後封を鳥取藩に轉じ居を現主地にトす爾來二十有餘世の久しき系統連綿地方稀有の舊家として夙に郷黨に推重せらる

君幼にして學を郷校に受け稍や長じて儒者山内先生に就き漢籍を修むる數歲

學大に進む明治十年二月醫學に志し縣立病院に入り醫學を修め翌年後を東都に負ひ壬申義塾に入り獨乙學を研修する三年餘轉じて大學醫學部豫備科に入學し居る事數月偶々父の病に接して郷貫に歸り家事に妨げられ遂に再び大學に入る事を得ず明治十三年京都私立醫學校に修學す翌年大坂私立醫學校の幹事となり次て東京順天堂病院及山龍堂病院に通勤なし實地經驗を遂げ十五年東京濟生學舎に入り内外科の醫學を專攻し學術大に進み業成りに及びて内務省醫術開業試験に登第し郷里に歸り開業す爾來全郡醫會々長に撰ばれ其の任に在る事五年其職責に尽瘁せし功績不尠明治二十六年東京顯微鏡病院助手となり院務に力む斯く多年勤學能く其業に勉め一日も寧處せず俄々吃々斯業の上達に勉むるもの夜以て日に繼ぎ益々醫術の蘊奧を究む而して君は尙ほ年々

歳々醫學研究の爲め上京なし修業怠らすと云ふ明治三十五年七月米子東町に宏壯なる建築をなし橋田醫院を設立し自ら院主となり外科婦人科を専門とし開業普く患者の診療に力む爾來日尙は淺しと雖も君の技術非凡に絶するの聲望を博し今や來往診を乞ふもの多く患者日々輻湊門前市をなせりと實に盛なりと云ふへし現時大日本衛生會修身會員たり因に記す令息邦彦氏は目下東京高等學校に在學中なりと

君人となり資性温順恭謙殊に慈善心に篤く哀憐の情に富む加ふるに明敏豁達才を果斷に決し學識洽博にして技術又非凡に傑出す人皆な地方醫伯を以て推尊するに至れり君又公共慈善救恤に資を吝まらず故に木杯賞状を受くる數千度に及へりと云ふ

桑田藤十郎君傳

君は鳥取縣の多額納稅者にして幼名安之助と稱し嘉永五年五月二十五日を以て伯耆國東伯郡倉吉町字魚町に生る其家世々藤十郎と通稱す幕政累代里正格を勤めし門閥にして國産木綿商を以て家業とし桑田家出貨の谷印木綿は京坂北海地方に於て最も聲價を有せしが時世の變遷に伴ひ需用順に地に墮ちしを以て明治十六年斷然之を廢止せり

君幼にして學を好み碩儒に従ひ普く和漢の書を研修する數歲造詣する所淺からず年甫十五父を喪ひ始めて其産を繼ぎ後ち父祖の名を襲ふ其起つて家政を理むるや勤儉自ら守り能く父の遺法に規り秋毫も未だ替へ失墜する處なし是

を以て家務整然として其緒に安んじ産業滋々として播殖し資産益々揚り遂に縣下有數の巨豪に至る明治十四年君始めて學務委員となり卒先して資財を捐て町立成徳小學校を新築し翌十五年郡會議員に推され尋いて縣會議員に推さる君最も學事の獎勵に熱衷し着々同郷の教務を整理し殆んど身を以て其衝に當る其一旦縣會議員に撰ばる、や學事執掌の事務甚だ繁く或は其職を二にして曠職の悔あらんを恐れ議員を辞せんと欲し表を奉る而も郷黨皆其德に薰し之を許さず翌年更に又再撰の榮を占む所謂山陰義塾なるもの即ち君が斡旋の下に設立せられたる中等教育の學舎なり其他君が實業に畫せる偉績を擧ぐれば地方金融の機關なきを慨して倉吉融通會社を自邸に創立せしむ如き産業の發達を圖らんが爲めに山陰製糸會社を創立し専ら生絲製造の獎勵を力め改良

を圖りしむ如き蓋し同地方に於ける有數の起業となす今日該地産出の生糸が能く品位良好を以て位を全國の首位に占むるもの全く君が獎勵の餘功に出づ是君が性行の一斑を示すものにして之を細叙すれば實に零々たる冊子は爲めに全編を歿せん故に吾人は今其梗概を記するに止む君最も學を好み博く書史を繙き詩文を好くし又法律に通曉す常に好んで資を學校病院警察郡衙等の一般公共事業の建築に捐て又數々貧民を救恤す是を以て賞杯褒狀を得たるもの舉げて數ふべからず德行斯の如く素封又斯の如し年處漸く加て名聲益々揚がり明治二十三年帝國議會黨頭遂に勅選の榮を被つて貴族院議員に擧げらる人の榮も亦極まれりと云ふべし

君人となり資性温厚篤實にして謹慎退讓一見人をして素封の名門たるを知ら

しか其進んで國家立法の樞機に參ずるや、假令雄辨快活議論風生の慨なしと雖も、其圓滿謹厚の言動却て眞と寫して世人を動かさず、貴族院中の錚々たる令聞を致せり。平素谷干城近衛篤磨公等と交誼を結び行動と共にし、國家の慷慨家として世人に囑望せられ退て民業の發達を企畫するや、務めて郷黨の利潤を謀り敢て濫りに私せず、専ら公利を起し公益を畫し、碎勵殆んど勞を吝まず、是を以て德望隆々として一郷に普く名聲赫々として、全縣に輝く君が才幹の超凡にして、卓見夙に時世の趨勢を看破し、地方諸般の情況に通じ、凡そ縣下の公職公事一として君の關與を俟たざるなし、君亦誠意勤勉孜孜として、國利民福を圖る事十年一日の如くなりければ、名聲四方に喧傳せられ、輿望翕然として君が一身に靡り優に先輩を凌ぐの觀あり、以て君が如何に地方の人士を收攬せる事の深遠なる乎

を知るに足るべし

因に記す君三子あり、令息態藏氏は既に帝國大學を卒へ、榮譽ある法學士の學位を得、尙ほ進んで海外に遊歴し、獨逸地方を視察大に得る處あり、又二子は又大學を卒へ、工學士の榮譽を占む、尙ほ三子は目下帝國大學に在學中なりと云ふ、古聖は曰へり、將門將と出すと夫れ君の如きを謂ふ乎